

### 和仏法律学校講義録

松岡, 義正 / 杉本, 貞治郎 / 島田, 鐵吉 / 松浦, 鎮次郎

---

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

2

(号 / Number)

特別法

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

44

(発行年 / Year)

1903-05-01



（明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可 毎月廿一四二日三五日六日八日十日十一日十二日十三日十五日十六日十八日廿一日廿三日廿五日廿七日廿八日廿九日三十日發行）

明治三十六年五月一日發行

三十六年度 特別法ノ二

和佛法律學子校講義録

第三百號

和佛法律學校

特別法第二號目次

市制 町村制 (頁一四九)

法學士 松浦鎮次郎

戶籍 法 (頁一〇八)

法學士 島田鐵吉

人事訴訟手續法 (頁二四九)

法學士 松岡義正

特許 法 (頁一六)

法學士 杉本貞治郎

雜報

○府縣ノ訴訟ニ付キ代表者指定ノ效果○同籍内ニ於ケル養子縁組ト相續權○離婚ノ身分登記手續○所得稅及ヒ營業稅計算

(正誤 府縣三頁五行「場合」ハ「場合」ニ市制町村制二頁  
「一行」ニ關係「關係」ニ報三頁四行「成」ニ「成」誤)

090  
1903  
5-2

事實上市町村ト類似セル自治權ヲ行ヘル團體ニシテ法カ明ニ之ヲ認メサルモノアリ此等ハ皆特殊ノ事情アリ内地ト等シク之ニ對シテ市町村ノ制ヲ布クヘカラサルニ出ラタル特例タルニ過キス要スルニ市町村トハ北海道沖繩縣及島嶼ヲ除キ全國ニ設ケラレタル最下級ノ普通地方團體ヲ謂フニ外ナラス以テ市町村ノ性質ヲ知ルヘキナリ

第二節 市町村ノ成立及廢合

市町村ハ已ニ述フルカ如ク國家ノ機關トシテ國家ノ事務タル地方公共事務ヲ行フコトヲ目的トスル團體ナルカ故ニ其存立ニハ國家ノ行爲ヲ要スヘキコト固ヨリ論ヲ待タス從テ國家ハ第一ニ市町村ナル自治團體ヲ認メ此團體カ如何ニシテ活動スヘキヤ即チ如何ナル機關ニ依リ如何ナル方法ヲ以テ其政務ヲ行フヘキヤノ原則ヲ定ムルヲ要シ第二ニ右ノ原則ニ從ヒテ活動スヘキ箇箇ノ市町村ヲ成立セシムルヲ要ス而シテ第一ノ行爲ハ多數ノ場合ニ通スル法則ヲ定ムルモノナルカ故ニ法規ノ形式ヲ以テ之ヲ爲ササルヘカラスト雖第二ノ行爲

ハ決シテ法則ヲ定ムルノ趣旨ヲ有セス市町村カ一タヒ此國家行爲ニ依リテ成立シタル後ハ當然市町村團體ノ活動ニ關スル一般ノ原則即チ第一ノ行爲ニヨリテ定マレル法則ニ從ヒテ存續スヘク第二ノ行爲ハ唯箇箇ノ市町村團體ヲ生レ出ラシムルノミノ目的ヲ有シ此目的ノ終了即チ市町村ノ成立ト共ニ消滅ニ歸スヘキモノナルカ故ニ性質上一箇ノ行政行爲ニ過キス從テ法律命令等法規ノ形式ヲ以テ之ヲ爲スヲ要スルニ非ス次ニ已ニ存在セル箇箇ノ市町村ヲ廢止スルニハ更ニ國家ノ行爲ヲ要スレトモ此行爲モ亦市町村ヲ成立セシムル行爲ト同シク性質上一箇ノ行政行爲ニシテ法規ノ形式ヲ以テスルノ必要ナキナリ故ニ我國ニ於テモ初テ市町村自治ノ制度ヲ設クルニ當リテハ市制町村制ナル法律ヲ以テ市町村ニ關スル一般ノ法則ヲ定ムルト共ニ此法律ヲ施行スルコトニ依リテ箇箇ノ市町村團體ヲ發生セシムルノ主義ヲ探リタレトモ市制一二六町村制一三七已ニ成立セル市町村ヲ廢止變更スルニハ法規ノ形ヲ以テセス行政處分ヲ以テ之ヲ爲スヘキコトヲ規定セリ即チ甲市町村ヲ割キテ乙丙ノ二市町村トナシ甲乙丙ノ二市町村ヲ併セテ丙市町村トナシ甲市町村ノ一部ト乙市町

村ノ一部トヲ併セテ丙市町村ヲ新設シ若ハ甲市町村ノ一部ヲ乙市町村ニ屬セシムルカ如キ所謂市町村ノ廢置分合ハ關係アル市町村會及郡縣參事會ノ意見ヲ聞キ其異議ナキ場合ニ於テ府縣參事會之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ受クヘキモノトス但シ市町村ノ實力カ微小ニシテ到底法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪ヘタルカ若ハ公益上必要ナリト認ムル場合ニ於テハ府縣參事會ハ關係者ノ異議アルニ拘ラス市町村ノ廢置分合ヲ議決スルコトヲ得廢置分合ノ結果トシテ從テ市町村ノ財産ヲ處置スルヲ必要トスル場合ニハ府縣參事會ニ於テ併セテ其處置方法ヲ議決スヘキモノナリ市制四町村制四而シテ此處置方法タルヤ一箇ノ處分トシテ之ヲ爲スモノニ外ナラサルカ故ニ關係者ニ於テ之ニ不服アルモ民事訴訟ノ方法ニ依リ救済ヲ求ムヘキモノニ非サルハ論ヲ待タス猶數府縣ニ涉ル市町村ノ廢置分合ノ場合ニハ何レノ府縣參事會ニ於テ之ヲ議決スヘキモノナルヤニ付テハ何等ノ規定ナシト雖結局監督官廳タル內務大臣ニ於テ議決ヲナスヘキ府縣參事會ヲ指定スルノ外ナカルヘシ

町村ヲ變シテ市トナシ又ハ市ヲ變シテ町村トナスハ團體其者ノ構成ヲ變更ス

ルニ非スト雖團體ノ利害ニ關スルコト少カラス然モ市町村トハ共ニ最下級ノ自治體タルニ拘ラス法カ兩者ヲ區別シ其機關ノ組織等ニ關シ多少ノ差異ヲ設クル所以ノモノハ畢竟都會輻湊ノ地ト其他ノ土地トハ自ラ人情風俗ヲ異ニシ又經濟上ノ事情ヲ異ニシ全ク一様ノ制度ヲ以テ之ヲ律スヘカラサルモノアルカ爲ニ都會地ニ對シテハ市ヲ設ケ其他ノ土地ニ對シテハ町村ヲ設クルノ趣旨ニ外ナラサルカ故ニ土地ノ情態ノ變動ニ依リテハ町村ヲ市トナシ又ハ市ヲ町村トナスノ必要ヲ見ルコト往往ニシテ之レアルヘシ此場合ニ於テハ結局市制一二六又ハ町村制一三七ノ規定ニ依リ已存ノ町村ニ對シテ市制ヲ施行シ又ハ已存ノ市ニ對シテ町村制ヲ施行スルノ外ナシ又町ト村トハ毫モ法律上ノ差異アルニ非ス唯大體ニ於テ小都會ノ姿ヲナセル土地ハ之ヲ町ト稱シ農業地ハ之ヲ村ト稱スルニ過キテレトモ村ヲ町トナシ若ハ町ヲ村トナサントスルトキハ關係アル町村會及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ内務大臣ノ許可ヲ受ケタルヘカラス其他單ニ市町村ノ名稱ヲ變更セントスル場合即チ甲市町村ト稱シタルモノヲ乙市町村ト稱セントスル場合ニモ亦同一ノ手續ヲ要

ス(二十三年八月法律第七十七號市町村名稱及市役所町村役場ノ位置變更ニ關スル件)

### 第三節 市町村ノ構成

市町村ハ一定ノ境域ト其境域内ノ住民即チ團體員トヲ以テ構成セラレ故ニ境域ト住民トハ市町村存立ノ二要素ヲナスモノナリ

#### 第一 境域

市町村ノ境域トハ市町村自治權ノ行ハルル土地ノ範圍ヲ謂フ市町村ノ行政權ハ其主トシテ其團體員ニ對シテ行ハルルモノナレトモ其境域内ニ於テハ團體員ニ非サル者ニ對シテモ行ハルルコトアリ例ヘハ三箇月以上市町村内ニ滞在スル者ハ單ニ其實質ノミニヨリテ市町村稅ヲ納ムル義務ヲ有スルカ如キ市町村内ニ土地、家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者ハ其土地家屋營業若ハ其所得ニ對シテ賦課スル市町村稅ヲ納ムルヲ原則トスルカ如キ是ナリ市制九二、九三町村制九二、九三市町村カ領土權ヲ有ストイフハ畢竟如斯ク團體員ニ對スル關係ヲ

離レ單ニ其境域内ニ或關係ヲ有スルノ事實ニヨリテ團體員外ノ者ニ對シテ其權力ヲ及ホスノ狀態ヲ指シタルニ外ナラス市町村ノ行政權ハ又一方ニ於テ其境域外ニ於テ之ヲ行フコトヲ得ス故ニ一ノ市町村カ自己ノ營造物ヲ他ノ市町村ノ境域内ニ設置スルカ如キハ特別ノ規定ナキ限ハ違法ナリトイハザルヘカラス唯市町村カ其行政事務ヲ行フ必要上一箇人ノ資格ヲ以テ私法上ノ行為ヲ爲スニ當リテハ其境域ニ依リテ制限セラルヘキモノニ非サルハ固ヨリ論ヲ待タス要スルニ市町村ノ境域ハ團體員ニ對スル關係ヲ離レ團體員外ノ者ニ對シテモ自治權ヲ及ホシ得ヘキ地域ヲ意味スルト同時ニ其自治權ノ行ハレ得ル限界ヲ示スモノナリ市制町村制ノ定ムル所ニ依レハ市町村ノ境域ハ總テ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セザルモノトス市制三町村制三此規定ハ市制町村制施行前已ニ市町村ノ區域アリトイフト等シク少シク奇ナルカ如シト雖我國ニ於テハ明治十一年區郡町村編成法ニ依リテ區劃セラレタル區町村ナルモノアリ區ハ市制ニ依ル市ニ該當シ町村ハ町村制ニ依ル町村ニ該當スルモノニシテ已ニ幾分カ自治ノ姿ヲ有シタリシモ法ニ依リテ明ニ認メラレタル自治團體ニ非

(戶第三八條第一項)

監督區裁判所カ前項ノ書類ヲ保存スヘキ期間ヤ十年ナリ戶第三八條第二項明治三十五年司法省令第二十一號身分登記戶籍及ヒ寄留ニ關スル書類保存規程第四條)

(元)登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキ 錯誤トハ登記中ニ眞實ニ反スル事項ノ記載アルヲ謂フ例ヘハ男ヲ女ト記載シ若クハ嫡出子ヲ私生子ト記載シアルカ如キ是ナリ次ニ遺漏トハ登記ニ記載スルコトヲ要スル事項ノ記載ナキコト及ヒ文字ヲ脱漏シタルコトヲ謂フ例ヘハ登記事件ノ本人ノ生年月日ノ記載ナキトキ若クハ氏名中ニ文字ノ脱漏アルトキノ如キ是ナリ登記ヲ爲シタル後戶籍吏カ其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキト雖任意ニ之ヲ訂正シ又ハ増補スルコトヲ得ス戶第一七條及ヒ(元)ノ第八條九參照其錯誤又ハ遺漏カ屆書等ニ缺點アリタルニ起因シタルト戸籍吏ニ故意又ハ過失アリタルニ起因シタルト戸籍吏限リニテ之ヲ訂正シ増補スルコトヲ許サザルハ若シ之ヲ許ストキハ登記ヲ不確實ナラシムルニ至ル虞

戶籍法 身分登記 登記手續 登記後ノ手續

アルカ故ナリ

右ノ場合ニ於テハ戸籍吏ハ其登記ニ錯誤アルコト又ハ遺漏アルコトヲ届出人申請人又ハ登記事件ノ本人ニ通知スルコトヲ要スルモノトス戸籍法第四〇條蓋シ之カ通知ヲ爲スハ此等ノ者ヲシテ戸籍法第六十七條乃至第六十九條ノ規定ニ從ヒ其身分登記ノ變更ノ申請ヲ爲サシメシカ爲メナリ

(注意)

(イ) 戸籍法第四十條ニハ届出人又ハ登記事件ノ本人ニ通知スルコトヲ要スト規定シアリ然ルニ届出ト申請トハ等シク私人カ身分登記ヲ求ムル方式ナルノミナラス申請人モ亦其申請ニ因リタル身分登記ノ變更ノ申請ヲ爲シ得ヘキモノナルカ故ニ同條ニ所謂届出人ハ届出人ト申請人トヲ包含スト解釋セサルヘカラス

登記カ届出申請又ハ届書ノ送付ヲ受ケタルニ因リ之ヲ爲シタルモノナルトキハ戸籍吏ハ事宜ニ從ヒ届出人若クハ申請人又ハ登記事件ノ本人ニ通知ヲ爲スコトヲ得レトモ登記カ請求又ハ報告等ヲ受ケタルニ因リ之ヲ爲シタルモノナルトキハ戸籍吏ハ登記事件ノ本人ニノミ通知ヲ爲スコトヲ要ス請求

者報告者等ハ身分登記ノ變更ノ申請ヲ爲シ得ヘカラサルカ故ナリ(元参照)

(ロ) 登記スヘカラサル事項ノ登記アルコト(戸籍法第四章第二節乃至第二十二節ニ該當セサル事項ノ登記ヲ謂フ例ヘハ就籍又ハ除籍ノ届出アリタル場合ニ戸籍吏カ誤リテ身分登記簿ニ之ヲ登記シタルトキノ如シ又ハ登記中ニ記載スヘカラサル事項ノ記載アルコト(例ヘハ登記中ニ届出人ノ位階ノ記載アルトキノ如シ)ヲ發見シタルトキト雖戸籍吏ハ任意ニ之ヲ抹消スルコトヲ得ス又戸籍吏ハ之ヲ届出人等ニ通知スルコトヲモ要セス

戸籍吏カ前項ノ通知ヲ爲スコトヲ要スルハ登記ヲ爲シタル後ニ限リ登記ハ戸籍吏カ戸籍法第三十一條ノ規定ニ從ヒ登記ノ文末ニ認印ヲ爲スニ由リテ終了スルモノナルカ故ニ未タ文末ニ認印セサル間ハ前項ノ通知ヲ爲スヘキニアラス若シ戸籍吏カ登記ノ記載ニ著手シタル後未タ文末ニ認印セサル以前ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其錯誤又ハ遺漏カ届書等ニ缺點アルニ基クモノナルニ於テハ其登記ヲ終了シタル後前項ノ通知ヲ爲スノ外ナキモ其錯誤又ハ遺漏ハ届書等ニ缺點ナキニ拘ラス戸籍吏カ誤記シ又ハ遺脱シタルニ

西ノモノナルニ於テハ戸籍法第二十九條第二項ノ規定ニ從ヒ之ヲ訂正シ削除シ又ハ文字ヲ挿入スルコトヲ得ルモノトス但一旦文末ニ認印ヲ爲シタル後ハ戸籍吏限リニテ訂正等ヲ爲スコトヲ得ス必ス前項ノ通知ヲ爲ササルヘカラス

(三)ノ末段參照

届出アリタル場合ニ其届書ニ錯誤又ハ遺漏アルトキハ戸籍吏之ヲ受理スルコトヲ得ス然レトモ若シ之ヲ受理シタルトキハ登記ノ著手前ニ於テ届書ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキト雖登記ヲ爲ササルコトヲ得ス其届書ニ基キテ登記ヲ爲シ然ル後前ニ述ヘタル通知ヲ爲スコトヲ要ス身分ニ關スル報告アリタル場合等亦同シ

(完)身分登記簿ニ最後ノ登記ヲ爲シタルトキ 戸籍吏ハ毎年末ニ至リ其年ノ各種ノ身分登記簿ニ於ケル最後ノ登記ノ次行ニ終結ノ旨ヲ記載シ職氏名ヲ署名シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス(戸籍法第一條第一項)年末ニ至ル前ニ身分登記簿ノ用紙ヲ用キ盡シタル場合亦同シ(同條第二項)右ノ手續ヲ終ヘタル身分登記簿ノ正本ハ之ヲ戸籍役場ニ保存シ副本ハ之ヲ監

管區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ納付スルコトヲ要ス(三)及ヒ(三)參照

第四章 身分ニ關スル届出

本章ニ於テハ身分登記ヲ求ムル手續(届出報告申請請求等)ヲ説明スヘシ本章ノ標題ヲ(身分ニ關スル届出)ト爲シタルハ便宜ノ爲メ戸籍法第四章ノ標題ニ倣ヒタルニ過キス

第一節 通則

(四)届出ヲ爲スヘキ地 身分ニ關スル届出ハ其届出人(届出人トハ現ニ届出ヲ爲ス者ヲ謂フ届出事件ノ本人ニアラス)ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但其届出人カ本籍地外ニ在ル場合ニ於テハ其所在地ノ戸籍吏ニ届出ヲ爲スコトヲ得(戸籍法第二條第一項)

届出人カ本籍ヲ有セザルトキハ其届出ニ關シテノミ其所在地ヲ以テ其者ノ本籍地ト看做ス(同條第二項)



(注意) 以上ハ届出地ニ關スル通則ナリ此通則ニ對シ例外ノ規定アリ第二節以下ニ之ヲ説明スヘシ

(四) 任意ノ届出及ヒ義務トシテノ届出 届出ハ任意ニ之ヲ爲ス場合ト戸籍法上ノ義務トシテ之ヲ爲ス場合トノ二種ニ分類スルコトヲ得

第一 任意ニ爲ス届出 届出ヲ爲スニアラザレハ效力ヲ生セザル事項ニ在リテハ届出ヲ爲サザル限リハ身分ニ影響ヲ生スルコトナシ故ニ國家ハ届出ヲ爲スコトヲ強制セズ唯届出ヲ爲サント欲スルトキハ戸籍法ノ規定ニ依ルコトヲ要スト爲スノミ婚姻協議上ノ離婚隱居廢家分家又ハ廢絶家再興ノ届出ノ如キ是ナリ

第二 戸籍法上ノ義務トシテ爲ス届出 既ニ發生シタル事項ニ付キ届出ヲ爲スヘキ場合ニ在リテハ國家ハ届出ヲ強制ス何トナレハ届出ナケレハ身分登記ヲ爲スニ由ナク身分登記ナケレハ其事項ニ因リテ生シタル身分關係ヲ公示スルコト能ハス隨テ身分登記ノ制度ヲ設ケタル趣旨ヲ貫徹スルコトヲ得サレハナリ出生死亡裁判上ノ離婚家督相續ノ届出ノ如キハ此種ニ屬ス

(四) 届出ヲ爲スヘキ者及ヒ届出義務者 婚姻其他任意ニ爲ス届出ニ在リテハ其届出ヲ爲スヘキ者カ無能力者ナル場合ト雖其者ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス

(注意) 届出ヲ爲スヘキ者戸第四六條等ト届出人戸第四二條第四五條第四六條等トヲ混同セザルヲ要ス届出ヲ爲スヘキ者トハ戸籍法第二節乃至第二十節ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スコトヲ要スト定メラレタル者ヲ謂ヒ届出人トハ現實ニ届出ヲ爲ス者ヲ謂フ

戸籍法上ノ義務トシテ届出ヲ爲スヘキ場合ニ在リテハ其届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ニアラザルトキハ其者ヲ以テ届出義務者トシ若シ其届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス(戸第四六條第一項)届出義務者トハ其文字カ示ス如ク國家ニ對シ其届出ヲ爲スヘキ義務ヲ負フ者ト云フ義ナリ

(注意) (イ) 戸籍法上ノ義務トシテ届出ヲ爲スヘキ場合ニ在リテモ任意ニ届出ヲ爲スヘキ場合ニ於ケルト同シク戸籍法第四章第二節乃至第二十節ニ

於テ其届出ヲ爲スヘキ者ヲ規定ス然レトモ若シ其者カ未成年又ハ禁治産者ナルトキハ(例ヘハ)戸籍法第七十一條ニ依ルトキハ嫡出子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス然ルニ父カ未成年者ナルコトアリ)戸籍法第四十六條ノ規定アルカ故ニ親權ヲ行フ者又ハ後見人カ届出義務者ト爲ル隨テ未成年者又ハ禁治産者ハ届出ヲ爲スヘキ限ニ在ラス

(ロ) 戸籍法第四十六條ハ戸籍法上ノ義務トシテ届出ヲ爲スヘキ場合ノミニ關スル規定ナリ何トナレハ任意ニ届出ヲ爲ス場合ニ在リテハ其届出ヲ爲スヘキ者ヲ届出義務者ト謂フコトヲ得サレハナリ

(ハ) 戸籍法第四十七條第一項ニハ「前條ノ規定ハ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スニテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ノ届出ニハ之ヲ適用セス」トアリ然レトモ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スニテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ付キ戸籍法上ノ義務トシテ届出ヲ爲スヘキ場合アルコトナシ隨テ本項ノ規定ナシトスルモ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スニテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ關シ第四十六條即チ戸籍法上ノ義務トシテ爲スヘキ届出ノミニ關ス

ル規定ノ適用セラルルコトナキカ故ニ本項ハ注意的ノ規定ニ過キス

(四) 届出期間 任意ニ爲ス届出ハ之ヲ爲スト爲ササルトハ其者ノ自由ナルカ故ニ此種ノ届出ニ付キテハ之ヲ爲スヘキ期間ノ定メナキコトハ言フア埃タスト雖戸籍法上ノ義務トシテ届出ヲ爲スヘキ場合ニ在リテハ戸籍法ハ其届出ヲ爲スヘキ期間ヲ定ム之ヲ届出期間ト謂フ届出期間ハ時ヲ以テ定メタルモノト日又ハ月ヲ以テ定メタルモノトノ二種アリ

第一 時ヲ以テ定メタルモノ 戸籍法第七十五條ニハ「棄兒ヲ發見シタル者ハ二十四時間内ニ其旨ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス」トアリ此場合ニ在リテハ二十四時間内ナル届出期間ハ棄兒ヲ發見シタル時ヨリ起算ス

第二 日又ハ月ヲ以テ定メタルモノ 日又ハ月ヲ以テ定メタル届出期間ニ關スル規定ハ之ヲ更ニ左ノ三種ニ分類スルコトヲ得

一 届出事件發生シタルトキハ若干日又ハ若干月内ニ之ヲ届出ツルコトヲ要スト規定シ届出期間ノ起算點ヲ示ササルモノ 戸籍法第六十八條ニハ「子ノ出生アリタルトキハ十日内ニ之ヲ届出ツルコトヲ要ス」トアリ其他第

百十四條、百十七條、百二十五條、百六十四條、百六十條等ハ此種ニ屬ス此種ノ規定ニ在リテハ届出期間ノ起算點ヲ示サタルカ故ニ届出事件發生シタル時ヨリ起算スヘキヤ將タ届出事件發生シタル日ヨリ起算スヘキヤ明カナラス故ニ戸籍法ハ第六十二條第一項ノ規定ヲ設ケ届出事件ノ發生シタル日ヨリ之ヲ起算スヘキモノト爲シタリ

二 届出事件ノ裁判確定シタル日ヨリ若干日又ハ若干月内ニ之ヲ届出ツルコトヲ要スト規定シタルモノ 戸籍法第七十九條第九十九條、百十一條等此種ニ屬ス此種ノ規定ニ在リテハ裁判確定シタル日ヨリ届出期間ヲ起算スヘキモノナルコトハ明白ナリ

然ルニ此種ノ場合ニ於テハ其届出ニハ裁判ノ牒本ヲ添附スルコトヲ要スルモノナルカ故ニ届出義務者カ裁判ノ送達又ハ交付ヲ受クル前ニ在リテハ其裁判カ確定シタルトキト雖届出ヲ爲スコト能ハス故ニ戸籍法ハ第六十二條第二項ノ規定ヲ設ケ裁判確定ノ日ヨリ届出期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ届出義務者カ裁判ノ送達又ハ交付ヲ受クル前ニ裁判カ確定シタル

トキハ届出期間ハ裁判確定ノ日ヨリ起算スシテ裁判ノ送達又ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算スルコトト爲シタリ

三 届出事件ノ發生アリタルコトヲ知リタル日ヨリ若干日又ハ若干月内ニ届出ツルコトヲ要スト規定シタルモノ 戸籍法第百二十五條、百三十三條、百五十一條、百五十三條等此種ニ屬ス此種ノ規定ニ在リテハ届出期間ハ届出事件ノ發生アリタルコトヲ知リタル日ヨリ之ヲ起算スヘキモノナルコトハ明白ナリ

戸籍法ニ届出期間ノ定メアル場合ニ於テハ届出義務者ハ其期間内ニ届出ヲ爲スヘキ義務ヲ負ヒ其期間内ニ届出ヲ爲ササルニ於テハ過料ニ處セラレ(戸第二一〇條)届出義務者ハ届出期間ニ限リ届出ノ義務ヲ負フニアラス期間ヲ經過シ過料ニ處セラレタルトキト雖届出ヲ爲スマテハ其義務ヲ免レヌ

戸籍法ニ定メタル届出期間内ニ届出ヲ爲スコトヲ怠リ過料ニ處セラレタル者アルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其者カ届出ヲ爲スヘキ地ノ戸籍吏ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但戸籍吏ヨリ既ニ届出ヲ受理シタル旨ノ通知アリタル場合ハ此

限ニ在ラス(戸第六三條第一項)

戸籍吏カ前段ノ通知ヲ受ケタルトキハ届出義務者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其  
期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス(戸第六三條第二項)  
届出義務者カ戸籍吏ノ定メタル期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ戸籍吏ハ更ニ  
相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ要ス爾後届出義務者カ戸籍吏ノ催告ニ  
應セサルトキ亦同シ(戸第六三條第三項)

(注意) 戸籍吏カ相當ノ期間ヲ定メテ第一回ノ催告ヲ爲シタル後届出義務者  
カ尙ホ其期間内ニ届出ヲ爲ササルニ於テハ戸籍吏ハ第一回ノ催告ヲ爲スト  
キト異ナリ裁判所ノ通知ヲ受ケタルコトナク直チニ相當ノ期間ヲ定メテ第二  
回ノ催告ヲ爲スコトヲ要ス第三回以後ノ催告亦同シ何トナレハ戸籍法第六  
十三條第一項及ヒ第二項ハ戸籍法ニ定メ在ル届出期間ヲ意リタル場合ノミ  
ニ關スル規定ニシテ戸籍吏カ定メタル届出期間ヲ意リタル場合ニ關シ適用  
スヘキ規定ニアラサルヲ以テ戸籍吏ノ定メタル期間ヲ意リタル場合ニ在リ  
テハ戸籍吏ハ裁判所ヨリ通知ヲ受ケタルコトナケレハナシ此事ハ第六十三條

第二項ニ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ下アルニ反シ同條第三項ニハ此ノ如  
キ文字ナキヨリ觀ルモ明カナリ

戸籍法第六十三條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ戸籍吏カ期間ヲ定メテ届出  
ヲ催告シタル場合ニ於テ尙ホ其届出ヲ怠ル者ハ戸籍法第二百十一條ノ規定ニ  
依リ過料ニ處セラル但裁判所ハ戸籍吏ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス

戸籍法ニ定メ在ル届出期間又ハ戸籍吏カ定メタル届出期間ヲ經過シタル後ニ  
届出ヲ爲シタル場合ト雖戸籍吏ハ其届出ヲ受理スルコトヲ要ス(戸第六五條)  
戸籍吏カ其管轄内ニ届出期間ヲ經過シテ猶ホ届出ヲ爲ササル爲メ過料ニ處セ  
ラルヘキ若アルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク之ヲ其過料ノ裁判ノ管轄裁判  
所ニ通知スルコトヲ要ス(戸第六四條)

(注意) 届出期間ヲ徒過シタル後届出ヲ爲シタル者ハ届出期間内ニ届出ヲ爲  
ササル者ナルカ故ニ過料ニ處セラレサルヘカラス隨テ此場合ニ於テモ戸籍  
吏ハ管轄裁判所ニ本文ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス(戸第六三條)  
(四) 届出ノ方式ニ關スル通則 届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヲ通則トス此書面

ヲ届書ト謂フ然レトモ正當ノ事由アル場合ニ限リ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シテ其事理ヲ陳述シ口頭ニテ届出ヲ爲スコトヲ得(戸籍法第三條)

届出ニハ後ノ第二節以下ニ於テ述フルカ如ク届出事件ニ關スル同意ノ證明戸第八七條第九八條第一一〇條等承諾ノ證明戸第八二條又ハ承認ノ證明戸第一二一條ヲ添フルヲ要スルコトアリ此等ノ證明ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヲ通例トスレトモ正當ノ事由アル場合ニ限リ口頭ノ届出ノ手續ト同様ノ手續ニ從ヒ口頭ニテ之ヲ爲スコトヲ得(戸第五十六條ニ依リ戸第四十三條第五十四條及ヒ第五十五條準用)

届出人其他ノ者ノ署名捺印ヲ要スル場合ニ於テ其者カ印ヲ有セザルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハザルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ捺印スルコト能ハス且ツ印ヲ有セザルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル但捺印セス又ハ名ヲ代署セシメ若シハ捺印シタル場合ニ於テハ書面ニ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス(戸第二一八條)

例 届出人カ文字ヲ知ラザル爲メ届書ニ署名スルコト能ハザルトキハ他人

ヲシテ届出人ノ名ヲ代署セシメ且ツ其旨ヲ附記スレハ足ル

(豊)届出ノ受理ノ證明 戸籍吏カ届出ヲ受理シタルトキハ届出人ハ手数料ヲ納付シテ届出受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得(戸第六六條)

其手数料ノ金額ハ戸籍法第二百七條ノ規定ニ基キ明治三十一年七月司法省令第十三號ヲ以テ金五錢ト定メラレタリ

(契)書面ヲ以テ爲ス届出ノ方式 書面ヲ以テスル場合ニ在リテハ(間)ノ外左ノ法則アリ

第一 届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人ノ署名捺印スルコトヲ要ス(戸第四四條)

- 一 届出事件 例(ハ)婚姻ノ届出ト謂フカ如シ
- 二 届出ノ年月日 届出ハ戸籍吏カ之ヲ受理スルニ由リ届出アリタルコトノ效力ヲ生スルモノナルカ故ニ届出ノ年月日ハ戸籍吏カ其届書ヲ受クル年月日ナラサルヘカラス

三 届出人ノ族稱職業出生ノ年月日及ヒ本籍地

第二 届出人ト届出事件ノ本人登記スヘキ事件ノ本人ヲ謂フ例ヘハ死亡ノ届出ノ場合ニ在リテハ死亡者はナリト異ナルトキハ其届書ニ其間ノ續柄ヲ記載スルコトヲ要シ届出人カ家族ナルトキハ届書ニ月主ノ氏名及ヒ届出人ト月主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス續柄トハ親族關係等ヲ謂フ

第三 戸籍法上ノ義務トシテ届出ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其届出ヲ爲スヘキ者カ未成年又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者ト爲スコトハ(四)ニ述ヘタリ此場合ニ於テ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヨリ届出ヲ爲ストキハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第四六條)

一 届出ヲ爲スヘキ者即チ未成年者又ハ禁治産者ノ氏名族稱出生ノ年月日及ヒ本籍地

二 無能力ノ原因未成年者又ハ禁治産者ナルコト

三 届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人タルコト

第四 戸籍法上ノ義務トシテ爲ス届出ノ場合ニアラズシテ任意ニ爲ス届出ノ場合ニ在リテハ無能力者ト雖自ラ届出ヲ爲スコトヲ得ヘキコトハ(四)ニ之ヲ

述ヘタリ

此ノ如ク任意ニ爲ス届出ハ無能力者ト雖自ラ之ヲ爲スヲ得ルモ而モ届出ヲ爲スニハ届出人カ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ意思能力ナカルヘカラス然ルニ禁治産者ハ心神喪失ノ常況ニ在ル者ナルカ故ニ禁治産者カ爲シタル届出ニ付キテハ果シテ心神カ通常ニ復シタル時機ニ於テ之ヲ爲シタルキ否キヲ調査スルノ必要アリ此必要ニ應ヘン爲メ戸籍法ハ禁治産者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出人カ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スル者ナルコトヲ證スルニ足ルヘキ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要スト爲シタリ(戸第四七條第二項)

第五 證人ヲ要スル事件ノ届出ニ付キテハ證人ハ届出ニ其證人タルコト出生ノ年月日職業及ヒ本籍地ヲ記載シテ署名捺印スルコトヲ要ス(戸第四八條證人ヲ要スル事件トハ婚姻民法第七五條協議上ノ離婚同第八一〇條養子縁組同第八四七條及ヒ協議上ノ離婚同第八六四條ノ四種ヲ謂フ)

第六 届出人届出事件ノ本人又ハ届出ノ證人カ本籍地外ニ在ルトキハ届書ニ

其所在地ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第四九條)

第七 戸籍法ノ規定ニ依リ届書ニ記載スヘキ事項中其實ノ存セザルモノ又ハ知レザルモノアルトキハ届書ニ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス故ニ届書ニ記載スヘキ事項ノ記載ヲ缺クモ其事實ノ存セザル旨又ハ知レザル旨ノ記載アルトキハ原則トシテハ戸籍吏其届出ヲ受理セザルヘカラス但戸籍吏ハ届書ニ記載ヲ缺キタル事項ヲ其届出事件ニ付キ特ニ重要ナル事項ナリト認メタルトキハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス(戸第五〇條)

第八 届書ニハ戸籍法其他ノ法令ニ定メタル事項ニアラザレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス(戸第五一條)

第九 届書ニハ略字又ハ符號ヲ用ヒス字畫明瞭ナルコトヲ要ス年月日時及ヒ年齢ヲ記スル數字ニハ一、二、三、十ノ字ヲ用キスシテ壹、貳、參、拾ノ字ヲ用ユルコトヲ要ス届書ニ記載シタル文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ届出人ニ認印シ證人ヲ要スル事件ノ届書ニ付キテハ證人モ亦之ニ認印

スルコトヲ要ス何トナレハ婚姻其他證人ヲ要スル事件ノ届出ハ當事者ノミヨリ之ヲ届出ツルニアラスシテ當事者及ヒ證人ヨリ之ヲ届出ツルモノナルヲ以テナリ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ明カニ讀ミ得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス(戸第五十二條ニ依リ戸第二十九條準用)

(注意) 届出ニハ届出事件ニ關スル同意承諾又ハ承認ノ證明ヲ添フルヲ要スルコトアリ(四)參照而シテ其同意等ハ届書ニ其旨ヲ附記シテ之ヲ證明スルコトヲ得ヘシ(戸第八七條等)然ルニ届書ニ之ヲ附記シタル場合ト雖其附記ハ届出ノ要件ニシテ届書ノ要件ニアラザルカ故ニ其附記ニ付キテハ戸籍法第五十二條ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

第十 被登記者ノ本籍カ移轉セザル事項例ヘハ出生ニ關スル届出ヲ被登記者ノ本籍地ノ戸籍吏ノ管轄地外ニ於テ爲ストキハ届書ハ正本副本各一通ヲ作ルコトヲ要ス(戸第五三條第一項)

(注意) 戸籍法第五十三條第一項ニハ本籍地ノ戸籍吏ノ管轄地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス下規定シ在ルカ故ニ届

出人カ戸籍法第四十二條等ノ規定ニ依リ自己ノ本籍地以外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ届書ノ正本副本各一通ヲ作ルコトヲ要スト解スル者アリ然レトモ届書ノ正本ノ外向ホ副本ヲ作ルコトヲ要スルハ其届出ヲ受理シタル戸籍吏カ登記ヲ爲シタル後被登記者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ届書ノ正本ヲ送付スル必要アルカ爲メニ外ナラス然ルニ縱令届出人カ自己ノ本籍地ニ於テ届出ヲ爲シタル場合ト雖若シ被登記者ノ本籍カ其届出ヲ受理シタル戸籍吏ノ管轄地外ニ在ルトキハ戸籍吏ハ届書ノ正本ヲ本籍ノ戸籍吏ニ送付スヘキモノナルヲ以テ副本ヲ要シ之ニ反シテ縱令届出人カ自己ノ本籍地外ニ於テ届出ヲ爲シタル場合ト雖モ被登記者ノ本籍カ其届出ヲ受理シタル戸籍吏ノ管轄ニ屬スルトキハ戸籍吏ハ他ノ戸籍吏ニ届書ノ正本ヲ送付スルコトヲ要セザルヲ以テ副本ヲ要スル理由ナシ故ニ戸籍法第五十三條第一項ニ本籍地ト在ルハ届出人ノ本籍地ヲ指スニアラスシテ被登記者ノ本籍地ヲ指スト解セザルヘカラス

届出ニ因リ被登記者ノ一人又ハ數人ノ本籍カ一ノ家ヨリ他ノ家ニ移轉スル場合例ヘハ婚姻等ニ於テ兩家ノ本籍地カ戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ届書ハ正本副本各一通ヲ作り届出地ト兩家ノ本籍地トカ各戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ正本一通副本二通ヲ作ルコトヲ要ス(戸第五三條第二項)以上ノ場合ニ於テ届出人ヲシテ届書ノ正本ノ外向ホ其副本一通又ハ二通ヲ作ラシムルハ此等ノ場合ニ在リテハ其届出ヲ受理シ登記ヲ爲シタル戸籍吏ハ他ノ戸籍吏ニ届書ヲ送付スル必要アリ(參照隨テ届出ヲ受ケタル戸籍吏ノ役場ニ留メ置クヘキ届書ト他ノ戸籍吏ニ送付スヘキ届書トヲ必要トスルカ故ナリ)

第十一 戸籍法第百六十三條第百六十四條等戸籍法ニ別段ノ規定アル場合ノ外向ホ他ノ法令ノ規定ニ依リ届出事件ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルコトアリ例ヘハ陸海軍人ノ婚姻ニ付キテハ本局長官ノ許可ヲ要スルカ如キ是ナリ此等ノ場合ニ在リテハ届出人ハ届書ニ其許可書ノ原本ヲ添付スルコトヲ要ス(戸第五七條)

(聖)口頭ヲ以テスル届出ノ方式 届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヲ通則トス然レ



トモ正當ノ事由アルトキハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シタル上書面ヲ以テ届出ヲ爲スコト能ハサル理由ヲ陳述シ戸籍吏カ其理由ヲ正當ナリト爲ストキハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲スコトヲ得戸第四三條

口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニテ其届出事件ヲ陳述シ戸籍吏ハ直チニ其口述竝ニ届出ノ年月日届出人ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地ヲ筆記シ且ツ届出人ヲシテ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス而シテ戸籍吏カ作ルベキ其書面ニ付キテハ届書ニ關スル前(與)ノ法則ヲ準用スヘキモノトス戸第五四條第五五條

口頭ヲ以テ届出ヲ爲サントスル者カ疾病其他ノ事故ニ因リ自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ差出スコトヲ得(戸第五八條)

代理人ヲ用キテ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス者アル場合ニ於テハ戸籍吏ハ委任狀ニ依リ其代理權アルコトヲ證明セシムルヲ相當トス但此事ニ付キテハ戸籍法ニハ何等ノ規定ナシ

(與)外國ニ於テ爲ス届出ニ關スル通則 外國ニ在ル日本人ハ戸籍法ノ規定ニ

從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得(戸第五九條)

届出事件カ戸籍吏ニ之ヲ届出ツルニ因リテ效力ヲ生スルモノナルトキ(例)ハ婚姻協議上ノ離婚(隱居等)ハ前段ノ場合ニ於テ外國ニ在ル日本ノ公使又ハ領事ニ其届出ヲ爲スニ因リテ戸籍吏ニ其届出ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ生ス

外國ニ在ル日本人カ其國ノ法式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシムルトキ例(ハ)日本ノ國籍ヲ有スル男ト日本ノ國籍ヲ有スル女トカ外國ニ於テ婚姻ヲ爲シ其國ノ法式ニ從ヒ婚姻ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキノ如キ是ナリ)ハ三箇月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其證書ヲ差出スコトヲ要シ戸第六〇條第一項日本ノ公使又ハ領事カ其國ニ駐在セザルトキハ本人歸國ノ後一箇月内ニ本籍地ノ戸籍吏ニ其證書ノ原本ヲ差出スコトヲ要ス(同條第二項)

(注意) (1) 身分ニ關スル法律行為ノ方式カ行為地法ニ依ルコトヲ得ルモノナル場合(例)ハ法例第十三條ノ如シニ於テ外國ニ在ル日本人カ其國ノ法式ニ從ヒ其行為ヲ爲シタルトキハ其行為ハ之ニ因リテ實體法上ノ效力ヲ生ス

隨テ本人カ其國ニ於テ其行爲ニ付キ證書ヲ作ラシメタル後其本人ヲシテ日本ノ公使又ハ領事若クハ本籍地ノ戸籍吏ニ其謄本ヲ差出サシムルハ之ヲ差出サラレハ實體法上ノ效力ヲ生セザルカ故ニアラス日本ニ於テモ其行爲ニ付キ身分登記ヲ爲シ其者ノ身分ヲ明確ナラシメンカ爲メニ外ナラス故ニ戸籍法ハ謄本ノ差出期間ヲ定メ其期間内ニ差出スヘキコトヲ戸籍法上ノ義務トシテ強制ス

(ロ) 本人カ法定ノ期間内ニ謄本ヲ差出サザルトキハ過料ニ處ストノ規定ナシ此場合ニ付キ過料ノ規定ヲ設ケザリシハ戸籍法ノ缺點ノ一ナリ以上ノ場合ニ於テ公使又ハ領事カ受取リタル届書又ハ證書ノ謄本ハ其公使又ハ領事ヨリ三箇月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ之ヲ本人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス(戸第六一條)戸籍吏カ外務大臣ヨリ届書又ハ證書ノ謄本ノ送付ヲ受ケ若クハ本人ヨリ證書ノ謄本ヲ受ケタルトキハ之ニ基キ身分登記ヲ爲スヲ要スルコトハ(元)ニ於テ之ヲ逃ヘタリ

(兎) 登記ノ取消又ハ變更ノ申請ニ關スル通則 登記ノ取消又ハ變更ノ申請ニ付キテハ届出ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノトス(戸第六七條)

(注意) 登記ノ取消又ハ變更ノ申請ニ付キテハ(元)ヲ參照スヘシ

### 第二節 出生ニ關スル届出

(乙) 總論 本節ニ於テハ子ノ出生ニ關スル届出ノ手續即チ戸籍法第二章第二節ノ規定ヲ説明スヘシ

子トハ人ノ其親ニ對スル關係ニ基ク身分ナルカ故ニ子ノ出生トハ單ニ人カ出生シタルコトヲ謂フニアラス人カ出生シタルコト其出生シタル人ハ何人ノ子ニシテ且ツ其親ニ對シテ如何ナル法律上ノ地位ヲ有スルモノナルヤト云フコトヲ包含スルモノトス隨テ戸籍法ハ子ノ出生ノ届出ニハ人ノ出生ニ關スル事實其人ノ名男女ノ別出生ノ年月日時及ヒ出生ノ場所ノミナラス其出生シタル人ノ親ノ氏名及ヒ親トノ法律的關係ヲモ記載スヘキモノトセリ  
次ニ我國ニ在リテハ歐米諸國ト異ナリ今尙ホ家族制度存スルヲ以テ日本人カ

出生シタルトキハ必ス家族制度ノ下ニ立チ一定ノ家ニ屬セサルヘカラス故ニ戸籍法ハ子ノ出生ニハ前段ニ説明シタル事項ノ外尙ホ其者ノ屬スル家ニ關スル事項モ記載スヘキモノトセリ

之ヲ要スルニ子ノ届出ニハ人ノ出生ニ關スル事實其モノト親トノ法律的關係親子ノ身分及ヒ其者ノ屬スル家ニ於ケル法律的關係戸主家族タル身分ヲ記載スヘキモノニシテ戸籍吏ハ届書ニ記載シタル事項ヲ登記スヘキモノナルカ故ニ子ノ出生ノ登記ハ此三種ノ事項ノ公ノ證明ナリ

子ニ實子ト養子トノ二種アリ然ルニ養子タル身分ハ縁組ナル法律行為ニ因リ定マルモノニシテ出生ニ因リ定マルモノニアラス隨テ子ノ出生ト謂フトキハ常ニ必ス實子ノ出生ヲ指スモノトス

民法ノ規定ニ依ルトキハ實子ニ嫡出子ト嫡出ニアラサル子トノ二種アリテ嫡出ニアラサル子ハ更ニ之ヲ父ノ知レタル私生子(父カ認知シタル私生子ヲ謂フ)父カ私生子ヲ認知スルトキハ父ニ對シテハ之ヲ庶子ト謂フモ母ニ對シテハ尙ホ私生子タリト母ノミノ知レタル私生子ト父母共ニ知レサル子(父カ認知シタ

ルトキハ父ニ對シテ庶子ト爲リ母カ認知シタルトキハ母ニ對シテ私生子ト爲ル)トノ三種ニ小別スヘキモノトス

民法ニハ嫡出子ノ定義ヲ掲ケタルカ故ニ民法ニ所謂嫡出子トハ如何ナルモノヲ指スヤニ付キテハ我國ノ舊來ノ慣例ニ從フノ外ナシ然ルニ我國ノ舊來ノ慣例ニ於テハ妻カ婚姻中ニ懐胎シタル夫ノ子ハ勿論懐胎ノ當時父母ノ間ニ夫婦ノ關係ナキモ父母カ婚姻ヲ爲シタル後ニ於テ生レタル子ヲモ之ヲ嫡出子ト謂ヒタリ隨テ民法ニ所謂嫡出子トハ父母ノ婚姻中ニ懐胎シ父母ノ婚姻中又ハ其婚姻ノ解消後ニ出生シタル子及ヒ父母ノ婚姻前ニ懐胎シ父母ノ婚姻中又ハ其婚姻ノ解消後ニ出生シタル子ヲ總稱スト爲ササルヘカラス

次ニ民法ニ於テハ嫡出子ニアラサル子ニシテ母カ知レタルトキハ之ヲ母ニ對シテ私生子ト謂フ私生子ハ父カ認知シタルトキ(即チ父カ知レタルトキ)ハ父ニ對シテハ庶子ト爲ルモ母ニ對シテハ依然トシテ私生子タリ故ニ父ニ對シテハ私生子ナルモノナク母ニ對シテハ庶子ナルモノナシ

(注意)

(1) 父母共ニ知レサル子ハ嫡出子ニモ庶子ニモ私生子ニモアラス

(ロ) 父ノ知レタル子ハ父ニ對シテハ嫡出子又ハ庶子ナラサルヘカラス母ノ知レタル子ハ母ニ對シテハ嫡出子又ハ私生子ナラサルヘカラス父母共ニ知レタル子ハ父ニ對シテ嫡出子ナルトキハ母ニ對シテモ亦嫡出子ナラサルヘカラス父ニ對シテ庶子ナルトキハ母ニ對シテハ私生子ナラサルヘカラス

(ハ) 嫡出子ニアラサル子ハ事實上父カ明カナル場合ト雖民法ハ之ノミヲ以テ父ノ知レタル子ト爲サス父カ認知ノ届出ヲ爲シタル場合ニ限リテ之ヲ父ノ知レタル子即チ庶子ト謂フ

(ニ) 事實上母カ明カナルトキハ母ノ知レタル子ト謂フ但父母共ニ知レサル子カ一家ヲ創立シタル後ニ在リテハ事實上母カ明カナルニ至ルモ母カ認知ノ届出ヲ爲スニアラサレハ民法ハ之ヲ以テ母ノ知レタル子ト爲サス

(ホ) 民法第七百三十三條乃至第七百三十五條第八百二十條乃至第八百三十六條ヲ參照スヘシ

(三) 子ノ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要スル場合ト然ラサル場合 航海日誌ヲ備ヘタル船舶ノ航海中ニ其船舶内ニ於テ子ノ出生アリタル場合ニ限リ出生ノ届

出ヲ爲スコトヲ要セス(戸第七八條其他ノ場合ニ在リテハ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

船舶ニハ航海日誌ヲ備フルコトヲ要スルモノト然ラサルモノトアリ而シテ如何ナル船舶ハ航海日誌ヲ備フルコトヲ要スルモノナルヤニ付キテハ商法其他ノ法令ノ定ムル所ニ從フヘキモノトス今商法ニ依ルトキハ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スル船舶ニ在リテハ端舟其他船體ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ船體ヲ以テ運轉スル舟ヲ除キタル以外ノ船舶ハ原則トシテハ航海日誌ヲ備フルコトヲ要スト爲シ外國ニ航行セサル船舶ニ限リ命令ヲ以テ之ヲ備フルコトヲ要セサルモノト定ムルコトヲ得ト爲セリ(商法第五三八條第五六二條)

(ニ) 子ノ出生ノ届出ヲ爲スヘキ者 嫡出子カ出生シタルトキハ父ハ其出生ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ但左ノ場合ニ在リテハ母カ之ヲ爲ス義務ヲ負フ(戸第七一條第一項)

甲 父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合 父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合トシテ父ノ死亡不在疾病其他ノ理由ニ因リ事實上到底父ヨリ届出ヲ爲スコト能

ハサルトキヲ謂フ父カ未成年者又ハ禁治産者ナル場合ニ在リテハ既ニ述  
タル如ク戸籍法第四十六條ニ依リ父ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ父ノ後見人ヨ  
リ届出ヲ爲スヘキカ故ニ母ヨリ届出ヲ爲スヘキ限ニ在ラス但父ニ對シ親權  
ヲ行フ者ナキカ若クハ未タ父ノ後見人ノ設アラサルトキ又ハ親權ヲ行フ者  
若クハ後見人アルモ此等ノ者カ不在疾病其他ノ理由ニ因リ事實上届出ヲ爲  
スコト能ハサルトキハ母ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス

乙 民法第七百三十四條第一項及ヒ同條第二項但書ノ場合 民法第七百三十  
四條第一項ノ場合即チ嫡出子ノ出生前ニ父ノミカ離婚又ハ離縁ニ因リテ其  
家ヲ去リ母ハ尙ホ其家ニ在ル場合並ニ同條第二項但書ノ場合即チ父母共ニ  
離婚又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リタルモ嫡出子ノ出生前ニ母ノミカ復籍ヲ  
爲シタル場合ニ在リテハ其子ハ懐胎ノ始ニ父カ屬シタル家ニ入ル換言スレ  
ハ出生ノ當時現ニ父カ屬スル家ニ入ラスシテ現ニ母カ屬スル家ニ入ルモノ  
トス

通常ノ場合ニ在リテハ民法第七百三十三條第一項ノ規定ニ依リ嫡出子ハ出

生ノ當時父ノ屬スル家ニ入リ父カ既ニ死亡シタルトキハ父ノ最後ニ屬シタ  
ル家ニ入ルモノナルヲ以テ父ヨリ出生ノ届出ヲ爲スヲ要スト爲シタルモ前  
ニ掲ケタル民法第七百三十四條第一項及ヒ第二項但書ノ場合ニ限リテハ其  
子ハ母ノ家ニ入ルヘキモノニシテ父ハ母ト家ヲ同シウセサルカ故ニ母ヲ以  
テ届出義務者ト爲シタルナリ

庶子カ出生シタルトキハ父ハ其出生ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ(戸第七一條第二  
項)

(注意) 戸籍法第七十一條第二項ニハ庶子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲スコト  
ヲ要スト規定シアリ然ルニ私生子ハ父カ認知ヲ爲スコトニ因リテ庶子ト爲  
リ父ノ認知ハ戸籍吏ニ其届出ヲ爲スコトニ依リテ效力ヲ生スルモノナルヲ  
以テ父カ民法第八百三十一條第一項及ヒ戸籍法第八十一條ノ規定ニ從ヒ子  
ノ出生前ニ認知ノ届出ヲ爲シタルトキハ其子ハ庶子トシテ出生シタルモノ  
タリ隨テ父カ子ノ出生前ニ認知ヲ爲シタルトキハ父ヨリ庶子出生ノ届出ヲ  
爲スヲ要スルコトハ言フヲ埃タス

私生子出生後ニ父カ認知シタルトキハ其認知ハ出生ノ時ニ遡リテ效力ヲ生  
 スルコトハ民法第八百三十二條ノ規定スル所ナリ然レトモ何人カ届出義務  
 者ナルキハ出生ノ當時ニ於テ定マリ出生ノ當時ニ於テ私生子ナルトキハ後  
 ニ述フルカ如ク母カ届出義務者ト爲ルカ故ニ母カ一旦届出義務者ト爲リタ  
 ル後換言スレハ私生子カ出生シタル後ハ假令父カ認知ノ届出ヲ爲シタルニ  
 因リ其子ハ出生ノ當時ニ遡リテ庶子ト爲リタルトキト雖之ニ因リ母ハ始ヨ  
 リ届出義務者ニアラザリシコトト爲リテ父ハ始ヨリ届出義務者タリシコト  
 ト爲ルヘキ謂ナク又認知ノ届出アリタル時ニ於テ母ノ届出義務止ミ其時ヨ  
 リ父カ届出義務ヲ負フニ至ルヘキ謂モナシ然レハ私生子出生後ニ父カ認知  
 ノ届出ヲ爲スモ尙ホ父ハ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要セス結局其子ノ出生前  
 ニ父カ認知ヲ爲シタル場合ニ限り父ヨリ庶子出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス  
 ルモノトス

私生子出生前ニ父ノ認知ナキカ出生シタルトキハ母ハ其出生ノ届出ヲ爲ス義  
 務ヲ負フ(戸籍法第七一條第二項)

(注意) 私生子出生シ其出生前ニ父ノ認知ナカリシトキハ母ハ届出義務者タ  
 リ而シテ出生後ニ至リ父カ認知ヲ爲シタル爲メ其私生子ハ出生ノ時ニ遡リ  
 テ庶子ト爲リタルトキト雖母ハ尙ホ届出義務者ニシテ父カ届出義務者ト爲  
 ルコトナキコトハ既ニ之ヲ述ヘタリ此ノ如ク母ハ尙ホ届出義務者ナリトス  
 レハ母ハ庶子トシテ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要スルカ將タ尙ホ私生子トシ  
 テ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要スルカラ決セサルヘカラス

母カ私生子出生ノ届出ヲ爲スヘキ義務ハ私生子出生ノ時ニ於テ定マル而シ  
 テ其届出義務ハ私生子カ父ノ認知ニ因リ庶子ト爲リタル爲メ庶子出生ノ届  
 出ヲ爲スヘキ義務ニ變更スヘキモノニアラス故ニ私生子出生ノ届出前ニ其  
 私生子カ庶子ト爲リタルトキト雖母ハ尙ホ私生子出生ノ届出ヲ爲スコトヲ  
 要シ庶子出生ノ届出ヲ爲スヘキ限ニ在ラス

右ニ掲ケタル區別ニ從ヒ父又ハ母ヨリ出生ノ届出ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其者  
 コリ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲ス  
 義務ヲ負フ

第一 子ノ家ノ戸主

第二 子ノ同居者

第三 分嫡ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆

第四 分嫡ヲ介抱シタル者

同順位ノ者數人アルトキハ其數人ハ孰レモ届出義務者タリ然レトモ其數人ノ届出義務者中一人ヨリ届出ヲ爲シタルトキハ他ノ者ハ届出ヲ爲ス義務ヲ免ル

(戸第七一條第三項)

(注意) (イ) 父カ庶子出生ノ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ第一乃至第四ニ

掲ケタル者カ届出義務者ト爲ル母ハ届出義務者ト爲ルコトナシ

母カ私生子出生ノ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ事實上ノ父ハ届出義務者ト爲ルコトナシ

(ロ) 戸籍法第七一條第三項ニハ單ニ第一戸主第二同居者トアルノミニテ届出ヲ爲スヘキ父又ハ母ノ家ノ戸主又ハ同居者ヲ指スカ子ノ家ノ戸主又ハ同居者ヲ指スカハ明確ナラス(家族ノ庶子及ヒ私生子ハ戸主ノ同意アルニア

ラサレハ其家ニ入ルヲ得ナルコトハ民法第七百三十五條ノ規定スルトコロナルカ故ニ庶子又ハ私生子ハ届出ヲ爲スヘキ父又ハ母ト其家ヲ異ニスルコトアリ然レトモ其子ニ關係アル者ヲ以テ届出義務者ト爲ス趣旨ナルヘキカ故ニ子ハ第一戸主第二同居者トアルハ子ノ戸主同居者ヲ指スモノナリト解釋ス

若シ病院監獄其他ノ公設所ニ於テ子ノ出生アリタル場合ニ於テ父又ハ母ヨリ出生ノ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ病院監獄又ハ其他ノ公設所ノ長若クハ管理人ヨリ之カ届出ヲ爲スコトヲ要ス(戸第七四條故ニ此場合ニ在リテハ戸主同居者其他ノ者ハ届出義務ヲ負フコトナシ)

届出義務者ハ子ノ出生ノ時ニ於テ定マル隨テ届出義務者ト爲ルヘキ者カ届出ヲ爲スコト能ハサルヤ否ヤモ亦子ノ出生ノ時ニ於テ定マラサルヘカラス故ニ子ノ出生ノ當時父又ハ母カ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ得ル情態ニ於テ在ルトキハ其者ハ届出義務者ト爲ル而シテ一旦届出義務者ト爲リタルトキハ縱令其後ニ至リ疾病其他ノ事由ニ因リ届出ヲ爲スコト能ハサルニ至ルモ其者ハ届出義務

務ヲ免ルルコトナク戸主其他ノ者カ届出義務者ト爲ルコトナシ  
以上ニ於テ嫡出子、庶子及ヒ私生子出生ノ場合ニ於ケル届出義務者ヲ説明シタ  
リ然ルニ出生シタル子カ嫡出子ナルカ然ラサルカ未タ確定セザル場合ト何  
人ノ嫡出子ナルカ未タ定マラサル場合トアリ此二箇ノ場合ニ在リテハ前ニ述  
ヘタル法則ニ依リ届出義務者ヲ定ムルニ由ナキカ故ニ戸籍法ハ特別ノ規定ヲ  
設ケタリ即チ左ノ如シ

甲 夫ハ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスル場合ト雖嫡出子出生ノ届出  
ヲ爲ス義務ヲ負フ戸第七二條 民法第八百二十條ニハ「妻カ婚姻中ニ懐胎シ  
タル子ハ夫ノ子ト推定ス、婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ  
取消ノ日ヨリ三百日内ニ生マレタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定ス」  
ト在リテ同法第八百二十二條ニハ「第八百二十條ノ場合ニ於テハ夫ハ子ノ嫡  
出ナルコトヲ否認スルコトヲ得ト規定セリ故ニ民法第八百二十條ノ場合ニ  
於テハ同法第八百二十五條、第八百二十六條ニ定メタル出訴期限内ニ夫カ否  
認ノ訴ヲ提起セザルカ否認ノ訴ノ判決カ確定スルカ又ハ夫カ同法第八百二

十四條ノ規定ニ依リ否認權ヲ失フカニアラサレハ子カ嫡出子ナルカ將タ妻  
ノ私生子ナルカハ確定シタリト言フヲ得ス隨テ此場合ニ在リテハ嫡出子ト  
シテ出生ノ届出ヲ爲スヘキカ私生子トシテ出生ノ届出ヲ爲スヘキカハ未タ  
確定セザルヲ以テ戸籍法ハ第七二條ノ規定ヲ設ケタルナリ

前ニ述ヘタル如ク夫ハ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスルトキト雖公  
法上ノ義務トシテ嫡出子出生ノ届出ヲ爲ササルヘカラサルカ故ニ此届出ヲ  
爲シタレハトテ子ノ嫡出ナルコトヲ承認シタリト爲スヲ得ス然レハ此届出  
ヲ爲スモ夫ハ否認權ヲ失フコトナキハ言フマテモナシ(民法第八二四條參照)

乙 民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ出生子ノ父ヲ定ムヘキトキハ  
母ハ出生ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ戸第七三條第一項 女ハ前婚ノ解消又ハ  
取消ノ日ヨリ六箇月ヲ經過シタル後ニアラサレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ザル  
ハ民法第七百六十七條第一項ノ規定スル所ナルモ此規定ニ違反シテ女カ再  
婚ヲ爲ス場合ニ於テ戸籍吏カ婚姻ノ届出ヲ受理シタルトキハ其婚姻ハ成立  
ス



民法第七百六十七條第一項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女カ分娩シタル場合ニ於テ其子ノ父ハ前夫ナルカ後夫ナルカ將タ其孰レノ子ニモアラザルカハ民法第八百二十條ノ規定ニ依リ之ヲ推定スヘキモノトス然ルニ同條ノ規定ニ依ルトキハ前夫及ヒ後夫ノ子ナリト推定セラレ(同條ニハ「婚姻中ニ懐胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス」婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若タハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ生マレタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定ス)ト規定シアルカ故ニ前婚ノ解消後三百日内再婚ノ成立(二百日内ニ生レタル子ノ如キハ前夫及ヒ後夫ノ子ナリト推定サル)爲メニ其父ヲ定ムル能ハサルコトアリ

民法第七百六十七條第一項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女カ分娩シタル場合ニ於テ同法第八百二十條ニ依リ其父ヲ推定スル能ハサルトキハ同法第八百二十一條ニ依リ裁判所之ヲ定ムルモノトス  
前掲ノ場合ニ在リテハ裁判所ノ判決確定スルマテハ子ノ父定マラス然ルニ出生ノ届出期間内ニ判決カ確定スルコトハ到底豫期スヘカラス隨テ父ヲ以

テ届出義務者ト爲スニ由ナシ故ニ戸籍法ハ第七十三條第一項ニ特別ノ規定ヲ設ケ母ヲ以テ届出義務者ト爲シタリ

女カ重婚ヲ爲シタル場合ニ於テ其分娩シタル子ハ民法第八百二十條ノ規定アル爲メ初婚ノ夫又ハ再婚ノ夫ノ子ナリト推定サルコトアリ此場合ニ於テ其父ヲ定ムル方法ニ付キ民法ニ特別ノ規定ヲ設ケザリシハ缺點ナリ

民法ニ特別ノ規定ヲ缺キタル結果戸籍法ニモ其出生ノ届出義務者ニ付キ特別ノ規定ヲ缺タ故ニ初婚ノ夫及ヒ再婚ノ夫ハ各別ニ嫡出子出生ノ届出ヲ爲サザルヘカラス即チ二重ノ届出アルコトヲ要ス(初婚ノ夫又ハ再婚ノ夫カ自己ノ嫡出子ナルコトヲ否認セントスル場合亦同シ)

(五)届出期間 子ノ出生アリタルトキハ十日内ニ之ヲ届出ツルコトヲ要ス(戸籍法第六八條)

(六)出生ノ届出ニ關スル戸籍吏ノ管轄  
(一)嫡出子出生ノ届出ハ出生地又ハ父母ノ本籍地若タハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(戸籍法第六九條第一項)

(注意) (イ) 通常ノ場合ニ在リテハ嫡出子ノ父ト母トハ其家ヲ同シクスレトモ婚姻ノ取消又ハ解消後ニ子カ出生シタル如キ場合ニ在リテハ父ト母トハ其家ヲ異ニス而シテ父ト母トカ其家ヲ異ニスルトキハ其本籍地ヲモ異ニスルコトアリ例ヘハ離婚後父ハ神田區ニ本籍ヲ有シ母ハ本所區ニ本籍ヲ有スルトキノ如キ是ナリ

父ト母トノ本籍地カ異ナルトキハ嫡出子出生ノ届出ハ父ノ本籍地又ハ母ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ得

(ロ) 父ト母トノ寄留地カ異ナルトキハ嫡出子出生ノ届出ハ父ノ寄留地又ハ母ノ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ得

庶子出生ノ届出ハ出生地又ハ父母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ得但庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得ザル場合ハ此限ニ在ラス(戸第六九條第二項)

(注意) (ハ) 父ト母トノ本籍地カ異ナル場合及ヒ父ト母トノ寄留地カ異ナル場合ニ付キテハ前(イ)及ヒ(ロ)ヲ參照スヘシ

法ノ規定ニ依リ婚姻事件ニ附帶シテ爲スコトヲ得ル縁組ノ取消又ハ離婚ノ請求ニ關スル訴ヲ除ク外他ノ訴殊ニ妻ノ財産引渡及ヒ小兒ノ引渡並ニ養育ヲ目的トスル訴ハ之ヲ前示ノ訴ニ併合シ又ハ其反訴トシテ提起スルコトヲ得ス第七條第二項蓋シ後者ノ訴ハ婚姻事件ニ屬スル訴ト全然其手續ヲ異ニスレハナリ是ヲ以テ裁判所ハ職權ヲ以テ併合又ハ反訴ノ法律上許スヘキモノナルヤ否ヤヲ調査シ不適法ニ併合シテ又ハ反訴トシテ提起セラレタル訴ヲ却下セタルヘカラス婚姻事件ニ屬スル訴カ併合シテ又ハ本訴及ヒ反訴トシテ提起セラレタル場合ニ於テハ裁判所ハ辯論ノ制限ヲ爲スコトヲ得レトモ民事訴訟法第一一九條辯論ノ分離ヲ命スルコトヲ得ス(民事訴訟法第一一八條蓋シ辯論ノ分離ハ同一ノ婚姻關係ニ付キ異ナレル裁判ヲ下スニ至リ人事訴訟手續法第七條ノ法意ニ反スルヲ以テナリ但シ斯ル法則ハ同居ノ訴ニ關シテ適用ナキヤ言ヲ缺タス(2)婚姻事件ニ付テハ第一審又ハ控訴審ニ於ケル辯論ノ終結ニ至ル迄訴ヲ變更シ(例ヘハ離婚ノ訴ヲ取消ノ訴ニ變更シ訴ノ事由ヲ變更シ(例ヘハ從來ノ原因ニ代リテ新ニ原因ヲ主張シ又ハ從來ノ原因ニ新原因ヲ附加シ)訴ヲ併合シ(例

ハ離婚ノ訴ニ取消ノ訴ヲ併合シ又反訴ヲ提起スルコトヲ得第八條但シ上告審ニ於テハ其性質上斯ル事項ヲ爲スコトヲ得ザルヤ當然ナリ(3)婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ實體的請求棄却ノ言渡アリタル場合ニ於テハ原告ハ爾後其以前ノ訴訟事件ニ於テ訴ノ變更訴ノ原因ノ變更又ハ訴ノ併合ニ依リ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ新ナル獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得又被告ハ爾後其以前ノ訴訟事件ニ於テ反訴ノ事由トシテ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ新ナル獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得第九條是ヲ以テ婚姻無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ取下ヲ爲シタル後尙ホ存續シタル反訴ニ付キ實體的請求棄却ノ言渡アリタル場合ニ於テ人事訴訟手續法第九條ノ適用ナシ原告又ハ被告カ其以前ノ訴訟事件ニ於テ主張スルコトヲ得ヘカラザリシ事實即チ請求棄却ノ判決以後ニ於テ成立シ又ハ當事者カ知リタル事實ニ關シテハ人事訴訟手續法第九條ノ適用ナシ又新ナル獨立ノ訴若クハ反訴ノ原因ト爲スニ非スシテ適法ナル婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ新訴ノ附帶原因トシ又ハ之ニ對スル抗辯ノ理由トシテ主張スルコトハ人事訴訟手續法第九

條ニ反セザル所ナリ訴カ人事訴訟手續法第九條ニ反セザルヤ否キハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スベキ事項ニシテ當事者ノ意思ニ依リ之ヲ左右スルコトヲ得ス而シテ調査ノ結果訴カ人事訴訟手續法第九條ニ反スト認メタルトキハ理由ナキモノトシテ請求ヲ棄却セザルヘカラス第二ノ訴ノ提起ノ當時ニ於テ第一ノ訴ニ關スル判決未タ確定セザルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ權利拘束ノ效力ヲ是認シ又當事者ハ權利拘束ノ抗辯ヲ提出シ獨立シテ提起シタル新訴ヲ却下シ又却下セシムルコトヲ得ヘシ何トナレハ婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ハ同一ノ婚姻ニ付キ同時ニ成立シタル總訴訟的材料ヲ包含スルヲ以テ此種ノ訴ノ一カ繫屬シタルトキハ同時ニ他ノ訴ニ對スル權利拘束ノ抗辯ヲ成セハナリ同居ノ訴ヲ人事訴訟手續法第九條ニ規定セザルハ蓋シ此訴ノ棄却及ヒ是認ハ婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ何等ノ影響ヲ及ボサザレハナリ(2)婚姻ノ無効又ハ取消ノ訴ハ夫婦ノ一方ヨリ若クハ第三者ヨリ提起スルコトヲ得又取消ノ訴ハ檢事ヨリ提起スルコトヲ得夫婦ノ一方カ婚姻ノ無効ヲ目的トスル訴ヲ提起スルコトヲ得ルハ取テ疑ナシト雖モ第三者カ訴ヲ提起スル

ニハ婚姻カ無効ナルコトニ因リテ特定ノ權利例ヘハ相續權ヲ有スルニ至リ若クハ婚姻ノ有效ナルコトニ因リテ特定ノ義務例ヘハ嫁資ノ贈與ヲ負フニ至ルコトヲ要ス蓋シ法文上斯ル事項ヲ規定セスト雖モ利益ナクシテ訴權ヲ有スルコトナケレハナリ夫婦ノ一方若クハ第三者又ハ檢事カ取消ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルハ民法第七百八十條以下ニ規定スル所ナリ各當事者第三者及ヒ檢事ノ有スル起訴ノ權能ハ互ニ獨立セルモノニシテ檢事カ取消ノ訴ヲ提起スルコトヲ拒絶シタル場合ニ於テ第三者カ訴ヲ提起スルコトヲ得又反對ニ第三者カ訴ヲ提起スルコト能ハサル場合ニ於テ檢事カ起訴スルコトヲ得ト論結スヘカラス然レトモ檢事ハ第三者ト又第三者ハ他ノ第三者ト共同シテ取消ノ訴ヲ提起スルコトヲ得(民事訴訟法第四八條)夫婦ハ第三者又ハ檢事ノ提起シタル訴ニ於テ相手方ト爲ルモノナルヲ以テ第三者又ハ檢事ト共同シテ起訴ヲ爲スコトナシ其他第三者ハ檢事其他ノ者夫婦ノ一方又ハ他ノ第三者ノ提起シタル訴ニ付キ從參加ヲ爲スコトヲ得(檢事ハ法律上明文ナキヲ以テ從參加ヲ爲スコトヲ得サルヘシ)婚姻ノ無効又ハ取消ノ訴ハ夫婦ノ一方カ提起スル場

合ニ於テハ他ノ一方カ相手方ニシテ第三者又ハ檢事カ提起スル場合ニ於テハ夫婦カ相手方ニシテ(第二條第二項)第二〇條其夫婦間ニ於テ既ニ無効ノ訴若クハ取消ノ訴カ繫屬シタルト否トヲ問ハサルナリ此ノ如ク夫婦ヲ以テ相手方ト爲スハ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノナルヲ以テナリ隨テ夫婦ハ必要的共同訴訟人ナリト云フヘシ(民事訴訟法第五〇條)夫婦ノ一方又ハ第三者ノ提起スル婚姻ノ無効又ハ取消ノ訴ニ於テ相手方トスヘキ者カ死亡シタル後ハ(第三者ノ提起スル婚姻ノ無効又ハ取消ノ訴ニ於テ夫婦ノ一方カ死亡シタル後)其生存者ヲ以テ相手方トス(第二條第二項)檢事ヲ以テ相手方トシ又檢事カ當事者ト爲リタル後相手方カ死亡シタルトキハ本案ノ訴訟手續受繼ノ爲メ裁判所ハ辯護士ヲ承繼人トシテ選定スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ其意見ヲ以テ定ムル報酬ヲ辯護士ニ與ヘシムルコトヲ得(第二條第三項乃至第五項)是レ公益上檢事カ婚姻ノ掩護者ナルト公益上相當ノ學識ヲ有スル辯護士ヲシテ相手方ノ死亡ニ因リ中斷シタル訴訟ヲ終局セシムルト又無報酬ニテ職務ヲ取扱ハシムルハ不適當ナルトノ法意ニ基ケリ離婚及ヒ同居ノ訴ハ夫婦ノ一方カ

他ノ一方ニ對シテ提起スヘキモノナルヤ言フ埃ダス  
 (四) 裁判所ノ職權及ヒ當事者ノ權能 婚姻事件ニ於テハ前述ノ如ク公益上職權訴訟進行主義ヲ是認シ當事者訴訟專行主義ヲ制限シタルヲ以テ(1)裁判所ハ婚姻及ヒ夫婦同居ヲ維持スル爲メ檢事並ニ當事者ノ提出セタル事實ヲ斟酌スルコトヲ得又職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得婚姻結合ノ無効ナル旨ヲ明白ニスル亦公益ナリ故ニ婚姻無効ノ訴ニ於テ婚姻ノ無効ナルヤヲ調査セシムルカ爲メニ亦檢事並ニ當事者ノ提出セタル事實ヲ斟酌スルコトヲ得又職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得セシメタルヘカラス獨逸民事訴訟法第六百二十二條第三項ハ斯ル法意ヲ是認シタリ(第一四條檢事ハ前述ノ如ク人事訴訟手續法第六條ニ依リ婚姻ヲ維持スル爲メ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得ルヲ以テ本條ハ一見不必要ニ似タリト雖モ檢事カ婚姻事件ニ共助ヲ爲スコトハ其自由意思ニ依ルヘキモノナルヲ以テ共助ヲ爲サザルコトアリ又共助ヲ爲スモ不十分ナルコトアルヲ以テ本條ヲ設ケ裁判所ニ職權調査ヲ爲サシムルハ甚タ必要ナリ如何ナル事實カ婚姻維持ノ爲メニ必要ナルヤハ民法ニ依リテ之ヲ定ム

而シテ職權調査ハ裁判所ノ自由ナル意思ニ依ルヘキモノナルヲ以テ裁判所ハ其偶然ニ假處分ニ關スル裁判(第一六條)ヲ爲スニ際シ覺知シタル事實ヲ斟酌シ又自白シタル事實ニ付キ尙ホ證據調ヲ爲スコトヲ得然レトモ裁判所カ職權調査ヲ爲スニ適當ナリト認メタル場合ニ職權調査ヲ爲サザリシトハ違法ナルヲ以テ上訴ノ理由ト爲ル民事訴訟法第四三四條第四三五條又裁判所ハ職權上利用セント欲スル事實及ヒ職權ヲ以テ取調ヲ爲シタル證據調ノ結果ニ付キ裁判前ニ當事者ヲ訊問スヘシ即チ當事者ニ口頭辯論ニ於テ意見ヲ陳述スルノ機會ヲ與ヘサルヘカラス裁判所カ斯ル訊問ヲ爲スコトナクシテ事實及ヒ證據調ノ結果ヲ斟酌シテ裁判ヲ爲シタルトキハ上訴ノ理由ヲ成ス民事訴訟法第四三四條第四三五條(2)裁判所ハ立證責任及ヒ推定ニ關スル法則ニ羈束セラザルコトナシ必要ナル場合ニハ自働的ニ心證ヲ得ルコトヲ工夫スルコトヲ得ヘシ故ニ裁判所ハ自白若クハ認諾ヲ利用スルコトヲ得羈束セラザルコトナシ又裁判手續ノ目的トシテ當事者ヲ利用スルコトヲ得即チ裁判所ハ當事者ニ自身出頭ヲ命ジ當事者又ハ檢事カ提出シタル事實ニ付キ訊問ヲ爲スコトヲ得民事訴訟

法第一一四條此命令ハ決定ノ形式ヲ以テシ口頭辯論ニ基クトキハ之ヲ言渡シ  
 反對ノ場合ニハ職權ヲ以テ送達ヲ爲ス(民事訴訟法第二四五條又此訊問ハ民事  
 訴訟法第一百四條ニ從ヒ口頭辯論ニ於テ之ヲ爲ス證人訊問ニ關スル規定ノ適  
 用ナキハ言テ埃タス若シ當事者カ出頭スルコト能ハサルトキ又ハ遠隔ノ地ニ  
 在ルトキハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得受命判事  
 又ハ受託判事ノ爲ス訊問期日ニ關シテハ民事訴訟法第二百六十七條第二百七  
 十八條第三百三十三條ヲ準用ス若シ當事者カ出頭セサルトキハ證人ニ關スル民  
 事訴訟法ノ規定ヲ準用シ強制出頭ヲ爲サシムルコトヲ得民事訴訟法第二九四  
 條第二九五條又若シ出頭シタル當事者カ訊問ニ對シ答辯ヲ爲ササルトキハ何  
 等ノ強制手段ナシ唯斯ル不行爲ヲ心證ヲ得ルノ用ニ供スルコトヲ得ルノミ第  
 一二條(3)裁判所ハ當事者訴訟專行主義ニ關スル法則ニ屬東セラレルコトナク  
 當事者ノ提出シタル主張カ實體上眞實ナルヤ否ヤヲ調査スルノ職務ヲ負フ故  
 ニ控訴審ニ於テ被告ノ提出シタル防禦方法ヲ時機ニ後レテ提出シタルモノト  
 シテ却下スルコトヲ得又之ヲ被告ニ留保スルコトヲ得(第一〇條民事訴訟

法第二一〇條第四二六條(4)裁判所ハ公益上婚姻ヲ維持スルカ爲メニ職權ヲ以  
 テ和諧ノ調フヘキ見込アルトキハ二回ニ限リ一年ヲ越エサル期間離婚ノ訴ニ  
 關スル手續ヲ中止スルコトヲ得第一三條中止ノ效力及ヒ手續ノ受繼ニ關シテ  
 ハ民事訴訟法第八十六條第八十七條第八十九條ノ規定ヲ參考スヘシ裁  
 判所ハ其審級ノ上下ヲ問ハス一回ニ限リ手續ヲ中止スルコトヲ得ルモノナル  
 ヲ以テ下級裁判所カ手續ヲ中止シタルトキハ同一ノ訴訟事件ニ付キ更ニ手續ヲ  
 中止スルコトヲ得又中止ハ併合シタル離婚ノ訴若クハ離婚ノ反訴ニ關シテ  
 之ヲ爲スコトヲ得ルハ當然ナリ(5)裁判所ハ職權ヲ以テ婚姻ノ無效若クハ取消  
 又ハ離婚ノ言渡シタル判決ヲ當事者ニ送達スヘシ第一五條是レ此種ノ判決ノ  
 確定ヲ當事者ノ行爲ニ委セサルカ爲メナリ隨テ婚姻ノ無效若クハ取消又ハ離  
 婚ノ目的トスル訴ニ對スル反訴ヲ棄却シタル判決及ヒ婚姻ノ無效若クハ取消  
 又ハ離婚ノ言渡シタル判決ニ對スル上訴ヲ棄却シタル判決亦職權ヲ以テ當事  
 者ニ送達セサルヘカラス(法文ハ狹義ニ失ス)而シテ該判決ノ送達ヲ職權ヲ以テ  
 爲サスシテ當事者ノ申立ニ因リテ爲シタルトキハ法律上效力ナキコト當事者

ノ申立ニ因リ送達ヲ求ムコトヲ要スル判決ノ送達ヲ職權ヲ以テ爲シタル時ニ於テ法律上效力ナキト同一ナリ各當事者ニ對スル送達ノ當否ハ之ヲ獨立ニ判斷スヘキモノニシテ相手方ニ對スル送達ノ當否ニ何等ノ關係ヲ有セザルナリ

婚姻事件ニ於テハ當事者ハ訴訟ノ目的ニ付キ公益ニ觸ルル限リハ直接及ヒ間接ニ處分ヲ爲スノ權能ナシ故ニ裁判上ノ自由推定自由(民事訴訟法第一一一條第二項)事實及ヒ證書ニ關スル陳述ノ不爲若クハ其拒絕(民事訴訟法第一一一條第三項)第三三五條乃至第三四一條並ニ請求ノ認諾ニ付テノ法則(民事訴訟法第二二九條)第一〇條ハ婚姻事件ニ適用ナシ隨テ裁判所ハ裁判上ノ自由推定自由陳述ノ不爲若クハ拒絕並ニ請求ノ認諾ニ付キ自由ニ證據タルノ價值ノ有無判斷ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ請求ノ拋棄ニ關スル法則ハ請求ノ拋棄ニ因リ婚姻ノ當否ニ關スル問題ヲ惹起スルコトナキノミナラス檢事ノ共助アルニ因リ公益上ノ目的ヲ達スルヲ以テ婚姻事件ニ適用アルモノト云フ可シ

(五) 判決及ヒ假處分 婚姻事件ニ於テ原告カ第一審ノ辯論ノ期日ニ出頭セザ

ルトキハ民事訴訟法第二百四十六條第二百四十七條以下ノ規定ニ從ヒテ訴訟下ノ關席判決ヲ言渡シ被告カ第一審ニ於ケル最初ノ辯論期日ニ出頭セザルトキハ被告カ公示送達ニ依リテ呼出ヲ受ケタル場合ヲ除ク外更ニ新期日ヲ定ムルコトヲ要シ辯論及ヒ關席判決ヲ爲スコトヲ得ス此ノ如ク被告ニ對シ二重ノ呼出ヲ爲スハ後述スルカ如ク婚姻事件ニ於テ被告ニ關席判決ヲ爲スコトナク即テ故障申立權ヲ認メザルノ代償ニ外ナラザルナリ故ニ出頭シタル原告ハ一定ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス且ツ辯論ハ之ヲ延期スルコトナシ民事訴訟法第二五四條第二五二條唯裁判所ハ被告ノ出頭セザル旨ヲ調書ニ記載シ職權ヲ以テ被告ヲ新期日ニ呼出スノ手續ヲ爲スヘキノミ(民事訴訟法第二百五十條ノ規定ハ婚姻事件ニ於テ出頭シタル被告カ辯論ヲ爲サザルトキニ適用アルヤ否キハ學者ノ争フ所ナリ然レトモ民事訴訟法第二百四十八條ノ規定ヲ適用シテ被告ニ懈怠ノ結果ヲ被ラシメザル理由ハ民事訴訟法第二百五十條ニ規定セル場合ニモ存スヘキモノナルヲ以テ辯論ヲ爲サザル被告ハ之ヲ辯論期日ニ出頭セザル者ト同視セザルヘカラス而シテ被告カ新期日ニ出頭セス又ハ最初ノ辯論期

日ニアラサル期日(最初ノ辯論期日ニハ出頭シ辯論ヲ爲シ)ニ出頭セザルトキハ出頭シタル原告ノ片面的辯論ニ基キ判決ヲ言渡シ更ニ期日ヲ指定シテ呼出ヲ爲スコトナク又闕席判決ヲ爲スコトナシ蓋シ婚姻事件ニ於テハ前述ノ如ク推定自白ニ關スル法則ノ適用ナキヲ以テ民事訴訟法第二百四十八條ヲ適用シ被告ニ對シ闕席判決ヲ爲スコト能ハサルノミナラス裁判所ノ職權調査並ニ檢事ノ共助ニ依リ被告ノ利益ハ其懈怠ニ拘ラス十分ニ保護セラレハナリ公示送達ニ依リ呼出ヲ受ケタル被告カ第一審ニ於ケル最初ノ辯論期日ニ出頭セザルトキハ更ニ期日ヲ定ムルコトナク辯論ヲ爲シ且ツ判決ヲ言渡ス蓋シ斯ル場合ニ於テハ二重ノ呼出ヲ爲スモ多クハ其效ヲ奏スルコトナケレハナリ(第一條)控訴人カ辯論期日ニ出頭セザルトキハ原告タルト被告タルトニ拘ラス被控訴人ノ申立ニ因リテ闕席判決ヲ言渡ス何トナレハ控訴人ハ何時ト雖モ其控訴ヲ取下クルコトヲ得ヘキモノナレハナリ(民事訴訟法第四二八條之ニ反シテ被控訴人カ辯論期日ニ出頭セザルトキハ原告タルト被告タルトヲ區別シ被控訴人カ原告ナル場合ニ於テハ控訴人ノ申立ニ因リ闕席判決ヲ言渡シ(民事訴訟法第

四二九條)被控訴人カ被告ナル場合ニ於テハ控訴人ノ申立ニ因リ闕席判決ヲ言渡スコトヲ得(第一條)第二項民事訴訟法第四二九條却テ出頭シタル控訴人ノ片面的辯論ニ基キ判決ヲ言渡ス(第一條)第二項前段其理由ハ前述シタルモノニ同シ但シ更ニ期日ヲ指定シテ被控訴人ヲ呼出スコトナシ蓋シ人事訴訟法第十一條第一項ハ被告タル被控訴人カ辯論期日ニ出頭セザル場合ニ適用ナキモノナレハナリ(第一條)第一項……(第一審ニ於ケル……)上告人カ辯論期日ニ出頭セザルトキハ原告タルト被告タルトニ拘ラス被上告人ノ申立ニ因リ闕席判決ヲ言渡スコト控訴人カ辯論期日ニ出頭セザル場合ニ同シ之ニ反シテ被上告人カ辯論期日ニ出頭セザルトキハ被上告人カ原告タル場合ハ勿論被告タル場合ト雖モ上告人ノ申立ニ因リテ闕席判決ヲ言渡ス何トナレハ上告審ニ於テ被告タル被上告人ノ懈怠ニ因リテ自白シタルモノト看做スヘキ事項ハ訴ノ理由タル事實ニ關係ヲ有セザルヲ以テ換言スレハ上告審ニ於テ被上告人ノ懈怠ニ因リテ自白シタルモノト看做スヘキモノハ上告審ニ於テ適法ニ主張スルモノト得ヘキ上告人ノ事實ノミナレハナリ(民事訴訟法第四三八條)第三項第四



六條以上ノ法則ハ反訴ノ被告ニ之ヲ適用ス(第一一條蓋シ反訴ハ原告ノ出頭セ  
タルトキト雖モ亦有效ニ提起スルコトヲ得ルカ故ニ民事訴訟法第二一二條獨  
リ被告ノミカ期日ニ出頭シ反訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ人事訴訟手續法第  
十一條第一項ノ意味ニ於ケル期日ノ懈怠アルヲ以テナリ婚姻事件ニ於ケル訴  
訟費用ニ關シテハ檢事カ敗訴シタル場合ニ國庫ノ負擔ニ屬シ第一七條其他ハ  
民事訴訟法第七十二條以下ノ規定ニ依ル

婚姻ノ無效若クハ取消又ハ婚姻ノ訴ニ付キ言渡シタル判決ハ婚姻ノ本質ニ從  
ヒ判決ノ效力ニ關スル法則ノ例外トシテ當事者間ニ於テハ勿論第三者ニ對シ  
テモ其效力ヲ有ス故ニ第三者ハ親族上及ヒ財産上ノ訴訟ニ付キ利益及ヒ不利  
益ニ於テ該判決ニ準據セサルヘカラス然レトモ民法第七百六十六條ノ規定ニ  
違反シタルコトヲ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ請求シタル場合ニ於テ其訴ヲ棄却  
シタル判決ハ當事者ノ前配偶者ニ對シテハ其者カ訴訟ニ參加シタルトキニ限  
リ其效力ヲ有ス是レ檢事若クハ當事者ノ配偶者等カ提起シタル婚姻取消ノ訴  
ニ於テ前婚姻カ成立セサルノ故ヲ以テ訴棄却ノ判決アリタル場合ニ於テ該判

決ノ效力ヲ前配偶者ニモ及ホシ第二ノ婚姻カ有效ニ成立スルモノト爲サハ前  
配偶者ヲ大ニ薄遇スト云ハナルヲ得ナルヲ以テナリ(第一八條)

裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リ扶養若クハ同居ノ義務子ノ監護其他ノ假處分殊  
ニ別居ヲ命スルコトヲ得(第一六條)而シテ人事訴訟手續法第十六條ハ唯假處分  
ノ限界ヲ規定シタルノミニシテ其前提要件及ヒ内容ハ之ヲ規定セス故ニ婚姻  
事件ニ於ケル假處分ト雖モ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ  
又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニアラスンハ之ヲ命スルコトヲ得  
ス(第一六條民事訴訟法第七五六條乃至第七六三條)

(六) 檢事カ提起スルコトヲ得ル婚姻事件ノ訴ニ關スル特則 檢事カ提起スル  
コトヲ得ル訴即チ婚姻取消ノ訴ニ於テハ(1)前述ノ如ク夫婦ヲ以テ相手方トス  
故ニ檢事カ夫婦ノ一方ニ對シテ提起シタル婚姻無効ノ訴ハ職權ヲ以テ不適法  
トシテ却下セサルヘカラス(第二〇條)訴ノ變更若クハ併合又ハ反訴ノ提起ハ  
檢事カ提起スルコトヲ得ル訴ナルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得又訴ノ事由ノ  
變更又ハ併合ハ檢事カ提出スルコトヲ得ル事由ナルトキニ限り之ヲ爲スコト

ヲ得第二ニ條是レ蓋シ檢事カ提起スルコトヲ得ル婚姻事件ノ訴ニ於テハ檢事ハ最モ廣キ權限ヲ有スルヲ以テ斯ル制限ナクシテ大ニ煩雜ヲ來スカ故ナリ(3)檢事ハ他ノ者カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テモ即チ自己カ訴ヲ提起セザリシ場合ニ於テモ婚姻取消ノ訴訟手續ニ干與シテ當事者タルノ權利ヲ有ス故ニ檢事ハ婚姻ノ取消若クハ維持ニ關スル申立ヲ爲シテ訴訟手續ヲ進行シ又ハ上訴ヲ爲スコトヲ得斯ル檢事ノ權限ハ原告カ其請求ヲ拋棄シ若クハ辨濟期日ヲ懈怠シタル場合ニ於テ重大ナル必要ヲ見ル隨テ裁判所ハ職權ヲ以テ檢事ニ對シテ判決ヲ送達セザルヘカラス而シテ檢事ハ公益上國家ヲ代表スルモノナルヲ以テ其擔任シテ爲シタル申立ニ羈束セラルルコトナシ故ニ公益ニ反スト認ムル以上ハ自己ノ申立ヲ是認シタル判決ニ對シテ亦上訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ當事者雙方カ上訴權ヲ拋棄シタル場合亦然リ同一ノ理由ニ依リ再審ノ訴モ提起スルコトヲ得ヘシ上訴ハ上訴裁判所ニ附置セラレタル檢事カ提起スルモノナルヘシ又檢事ハ訴訟手續ニ干與シタル場合ニ於テハ同一ノ目的ヲ有スル當事者ノ一方ト必要ノ共同訴訟人ト爲リ其從加參人ト爲ラス(民事訴訟法第五〇條(第二

# 特許法

法學士 杉本貞治郎 講述

## 總說

- 一 特許又ハ特許權ハ發明ヲ專用スル權利ナリ發明カ特許法ニ規定セラレタル條件ヲ具備スルトキハ發明者又ハ其承繼人ハ特許ノ既與ヲ出願スルコトヲ得此ノ出願カ適法ナルトキハ國家ハ特許ヲ與フ特許ハ特許處分ニヨリテ設定セララルナリ
- 二 特許權ハ發明ノ上ニ行ハルル權利ナリ特許法ハ發明ノ何ナルヤヲ規定セシテ蓋シ發明ノ定義トシテ一定不動ノ意味ヲ有スル言句ヲ得ルノ極メテ困難ナルノミナラス假令定義ヲ定メ得タリトスルモ各場合ニ於テ此定義ヲ適用ス

特許法 總說

ルニ當リテハ適用者ノ判斷ニ由リテ更ニ區區不齊ノ結果ヲ生スヘキヲ以テ就  
 ロ之レヲ學者實際家ノ自由解釋ニ一任シタルナリ然ルニ學者ノ解釋ハ千差萬  
 別ニシテ一モ統一の傾向ヲ有セス今一一之ヲ掲クルハ煩ニ堪ヘタルヲ以テ稍  
 有力ナル四五ノ學說ヲ紹介スヘシ或學者ハ廣ク從來存在セザリシ事物ノ案出  
 ナリト稱シ或ハ又發明ヲ以テ發見ノ一種ナリトナシ自然力ノ具體的技術的應  
 用ニ依リ繰返ヘシ得ル成果ヲ生スヘキ未知ノ事實ノ發見識認ナリト稱スル者  
 アリ此種ノ定義カ廣汎ニ失スルハ言ヲ待タサルノミナラス發明ト發見トハ精  
 密ナル限界ヲ區劃スルニ困難ナリトスルモ然カモ兩者ニ性質上ノ區別アルコ  
 トハ普通ノ見解ナルヲ以テ發明ハ發見ナリト云フハ語弊アリ或ハ發明トハ新  
 規ナル實用物件又ハ實用物件ノ作成ニ要スル新規ナル補助的手段ニ關スル智  
 能的製作物ナリト稱スル者アリ或ハ自然力ノ組合セニ關スル智能的製作物ニ  
 シテ一定ノ成果ヲ致スヘキモノナリト謂フ者アリ此等ノ學說ハ皆發明ヲ以テ  
 智能ノ動作ニ因リ生シタル成果其物此成果ハ無形ナリ之ヲ應用シテ生スル物  
 件其物トハ別物ナリヲ指シテ發明ト名ケ他ノ學說ハ此成果ヲ生シタル思考即

チ智能ノ動作ヲ指シテ發明ト稱スル者ヲ非難セリ又發明ニハ必ス技術ノ進歩  
 ヲ示スヘキ點ナカルヘカラスト主張スル者アリ之ニ反對スル學者ハ技術ノ進  
 歩ト否トハ全ク別問題ニシテ發明ノ定義ト關係アルモノニ非スト論ス或學者  
 ハ又發明ニハ必ス實用的價值ナカルヘカラスト謂フ者アリ之ニ反對スル學者  
 ハ是各國法律ノ規定ニ基キテ論スヘキモノニシテ發明其物ノ實體ニ非スト論  
 ス又或學者ハ發明ノ性質トシテ當然ニ新規ナルコトヲ意味スト主張シ之ヲ非  
 難スル者ハ又新規ハ發明ノ性質ト相關セスト謂フ凡ソ此等ノ論議ハ皆ナ有力  
 ナル學者ニ依リテ唱ヘラルルモノニシテ余ハ之ヲ輕輕ニ論評スルコトヲ躊躇  
 ス諸君願クハ各其好ム所ヲ取レ而シテ何レノ定義ヲ取ルモ實際ノ適用上著シ  
 キ差異ヲ生セス又本講義ノ行程ニ於テ所論ヲ異ニスル所ナシ唯タ大體ニ於テ  
 發明ハ自然力ノ組合セニ關スル智能的製作物ナルコトヲ總會スルヲ以テ足ル  
 發明ハ特許權ノ目的物ナリ特許權ハ恰モ所有權カ有體物ノ上ニ行ハルルト同  
 様ナル狀態ニテ發明ノ上ニ行ハルルナリ而シテ其效力モ甚相似タリ此ニ於テ  
 特許權(著作權ト共ニ)ヲ稱シテ或ハ智能的所有權ト稱スル者アリ或ハ無體物上

ノ權利又ハ非物質的貨物上ノ權利ト稱スル者アリ此等ノ名稱ニ關シテ又少カラナル論争アリト雖名稱ノ如何ハ吾人ノ間フ所ニ非ス發明ハ有體物ニ非サルカ故ニ民法上ノ物ニ非スト雖法律ハ之カ專用ヲ認メ又其ノ讓渡質入等ノ處分ヲ認ム乃チ一種ノ對世的權利ニシテ民法上ノ債權又ハ物權ニ非サルコト明カナリ

三 特許ハ發明者ニ發明ノ専用ヲ認許スルモノナルカ故ニ營業ノ自由ヲ主義トスル近世ノ經濟社會ニ於テハ之ニ反對スル者ナキニ非ス乃チ第十九世紀六十年代以來英獨佛ノ諸國ニ起リシ特許反對運動ハ極メテ優勢ナルモノナリシ然レトモ特許ハ上古又ハ中世ニ於テ行ハレタル特許又ハ專業權ト異ナリ理由ナクシテ特定ノ人ヲ保護スルモノニ非ス又特定ノ人ヲ保護スルカ爲ニ必シモ公衆ノ利益ヲ犧牲ニ供スルモノニ非ス發明者ノ功勞ニ酬イテ其發明ノ専用ヲ許スト雖一方ニ於テハ專用權ニ一定ノ年限ヲ附シ他ノ一方ニ於テハ特許ト同時ニ其發明ヲ公ニシテ工藝ノ進歩ニ資スルナリ公衆ハ特許年限間ハ其發明ヲ利用スルコトヲ得スト雖發明者カ此發明ヲ爲ス以前ニ於テハ公衆ハ此發明ヲ

知ラサリシナリ故ニ發明者ニ發明ノ専用ヲ許スモ社會全般ヨリ見レハ損スル所ナキノミナラス發明ノ實施ニヨリテ利益ヲ受ケルモノナリ然ルニ更ニ進歩ヲ必ス其發明ヲ共用セント謂フニ至リテハ亦甚タシカラズヤ工藝ノ進歩ノ一點ヨリ見レハ此發明ヲ社會ニ共用セシムルハ或ハ可ナルカ如シト雖發明者ニ發明ノ報償トシテ相當ノ保護ヲ爲スハ國民ノ發明心ヲ鼓舞スルニ因リテ工藝ノ進歩ヲ助ケルコト更ニ甚タ大ナルモノアリ而シテ此實際上ノ經驗ハ遂ニ久シク繼續セラレタル特許反對運動ヲ沈黙セシムルニ至レリ

四 特許權カ財產權タルヲ疑フ者ハアラスト雖但純粹ノ財產權ナリト云フ説ニ對シテ財產權ト人格權 (Persönlichkeitsrecht) 又ハ個人權 (Individualrecht) ト稱スヘキ一種ノ權利ト包含スル權利ナリト云フ説アリ此説ニ關シテハ更ニ説述スル所アルヘシ或ハ特許權ナル獨立ノ權利ノ存在ヲ否認スル者アリ其説ニ曰ク特許處分ハ發明者以外ノ人ニ對スル發明使用ノ禁止ナリ發明者ノ獨占的使用ハ此禁令ノ効果ナリ獨占の使用ノ權利ヲ賦與セラレタルニ非サルナリト又特許權ハ一種ノ特權 (Privileg) ナリト云フ者アリ又專業權 (Monopol) ナリト云フ説ア

リ現ニ埃國特許法ノ如キハ今尙H.M.P.ナル語ヲ用ニ然レトモ發明專用ノ權利カ特權又ハ專業權ナリシ時代ハ已ニ過去ニ屬シ現今ノ法制特ニ埃國法ノ下ニ於テモ特許ハ法律ノ規定ニ基キ何人ニモ賦與セラレヘキ權利ニシテ特權ニ非サルコト明カナリ又之ヲ獨占の權利ノ意味ニテ專業權ト稱スルハ必シモ不可ナリト云フニ非スト雖歷史上彼ノ特權ト伴ヒタル專業權ト同一視スルハ誤ナリ(六參照)又特許權ヲ以テ著作權ノ一種ト爲ス者アリ特許權ト著作權トハ其目的物カ智能的製作物ニ在ルコト相同シ故ニ權利ノ性質ニ關スル論議ハ大抵兩者ニ共通ナルヲ見ル然レトモ發明權ノ目的タル智能的製作ト著作權ノ目的タル智能的製作トハ其間自ラ性質上ノ區別アリ即チ發明權ノ目的ハ理想即チ考案其物ナリト雖其著作權ノ目的タルニハ考案其物ノミニテハ未タ足レリト爲ナス其考案ヲ一種ノ形式言語音響又ハ圖形等ト結付クルニ依リテ始メテ著作權ノ目的ト爲スコトヲ得ヘシ故ニ著作權ニ在リテハ考案ノ先後又ハ剽竊ハ問フ所ニ非スト雖發明ノ先後又ハ剽竊ハ特許權ノ成立ニ重大ナル關係ヲ生スルナリ

五 多數ノ學者ハ國家ノ特許處分前ニ於テ已ニ發明者ノ權利アルコトヲ主張ス即チ發明ノ完成ト同時ニ發明者ハ發明ヲ利用スル權利ヲ有ス特許權トシテ特許法ノ保護ヲ受クルハ特許處分ノ效果ナリト雖權利ノ實質即チ發明ヲ利用スル權利ハ特許法ヲ待タスシテ已ニ存在ス恰モ彼名譽權生命權姓名權等ノ如ク一種ノ人格權トシテ存在スト云フナリ然レトモ特許出願前ニ發明者カ其發明ヲ利用スルコトヲ得ルハ發明者ニ限ラス他人モ等シク之レヲ利用スルコトヲ得ヘシ假リニ之ヲ人格權ト稱スルモ之ヲ特許權ト内容ヲ同シクスル權利ナリト謂フハ取ルヘカラス特許權ノ内容ハ智能的製作物ノ獨占ナリ此獨占ナル觀念ハ特許權ノ本質ニシテ或學者ノ説明スルカ如キ他人ニ其利用ヲ禁シタル結果ニ非スシテ獨占の權利ノ效力トシテ他人ハ之ヲ利用スルコトヲ得ザルナリ是即チ特許權カ智能的の所有權ト稱セラレル所以ナリ然ルニ發明者カ其特許出願前ニ於テ其發明ヲ利用スルコトヲ得ル狀態ハ獨占のニ非ス乃チ特許權ノ内容ヲ備ヘタルモノト謂フヘカラス農夫アリ路上ニ一片ノ石ヲ發見シテ其錄ヲ磨キタリ然カモ之ヲ占有スルノ意思ナク他人ノ等シク其錄ヲ磨スルニ任セ

シテ此場合ニ於テ石ヲ利用スル狀態ハ論者ノ所謂ル人格權ナリ而シテ他日石ノ發見者カ所有ノ意思ヲ以テ其石ヲ占有シタルトキハ其所有權ハ彼人格權ト内容ヲ等シクスト謂フヲ得ヘキカ而シテ所謂ル發明者ノ權利ナル者ハ石ノ發見者ノ占有以前ニ於ケル利用權ト異ナル所ナキニ似タリ

六 特許出願前ニ於テ發明者ノ有スル權利ハ特許ヲ出願スル權利是ナリ之ヲ發明者ノ權利ト稱スルモ可ナリ此權利ハ前段ニ於テ論シタル所謂ル人格權トハ全然其性質ヲ異ニシ又特許權其物トモ異ナリ乃チ權利ノ内容ト發明ノ利用トハ些ノ關係ナクシテ單ニ國家ニ對シテ特許處分ヲ要求スルノ權利ナリ即チ一種ノ公權ナリ此權利ハ發明ノ完成ニ依リテ發生ス

特許ヲ出願スル權利ヲ以テ讓渡又ハ相續ノ目的トナルヘキ一種ノ財產權ト爲ス者アリ然レトモ國家ノ行政處分ヲ要求スルコトヲ得ヘキ權利カ私權ナリト云フハ首肯スルコトヲ得サルナリ論者ハ此權利ノ讓渡又ハ相續ノ目的ト爲ルコトヲ認メ又ハ認メント欲スルカ爲メニ主張スルモノノ如シ然レトモ國家ノ行政處分ヲ要求スル權利ハ公權ナルヲ以テ法律ノ規定アルニ非サレハ之ヲ他

人ニ讓渡シ又ハ相續セシムルコト能ハス又法律カ特ニ其讓渡又ハ相續ヲ認メタルカ爲メニ直ニ之ヲ財產權ナリト斷スヘカラス我特許法第一條ニ於テ發明者ノ承繼人カ特許ヲ出願スルコトヲ得ヘキコトヲ規定セルハ此公權ノ讓渡又ハ相續ヲ認メタル規定ト解釋スヘシ

七 特許ノ歴史ハ歐米ニ於テモ甚タ遠カラス上古ハ言フニ及ハス中世紀ニ於テ組合カ營業特權ヲ有シタル時代ニ在リテハ發明ハ總テ組合ノ有ニ屬シ各組合ハ發明ノ秘密ヲ以テ外間ノ竊用ヲ防キタリ組合員ニ非サル者ハ發明ヲ爲スモ營業特權ヲ有セザレハ發明ヲ實施スルニ由ナク又組合員ト雖其發明ヲ私有スルコトヲ得ザリシナリ十五六世紀ノ頃組合制度漸ク衰ヘ營業特權ハ漸ク各個人ニ賦與セラルルニ至リテ始メテ發明者カ特權ヲ得テ其發明ヲ專用スルコトヲ得ル時代ハ開始セラレタリ然レトモ當時仍ホ特權ノ賦與ハ王者ノ恩惠の任意處分ナリ王者ハ收入ノ目的ノ爲メニ營業權ヲ留保シ人民ハ本來營業ノ自由ナク王者ノ特許ヲ得ルニ非サレハ營業ヲ爲スコトヲ得サルヲ本則トス而シテ特權ニハ專業權ニ伴フヲ例トセリ然レトモ發明者ハ必ス特權ノ賦與ヲ受ク

ルコトヲ得ルニ非ス又發明者ニ非ナル者ニモ往此特權ヲ賦與セラルコトアリ故ニ當時ノ發明利用ノ特權ハ發明者ノ保護ナル觀念トハ全然合致スルモノニ非スシテ普通ノ營業ノ特權又ハ專業權ト其性質ニ於テ區別スル所無シ又當時王者ノ特許處分ヲ全然權利設定ノ處分ナリシコトハ疑ヲ容レザルナリ然ルニ社會ノ法律思想ハ次第ニ一方ニハ專業權制ヲ排斥シ一方ニハ發明者ヲ保護スル目的ヲ以テ確實ナル特權請求權ヲ認メントスルニ至レリ乃チ英國ニ於テハ千六百二十三年ノ法律ヲ以テ一般ニ王者ノ特權ノ賦與ヲ禁シ唯發明者保護ノ爲メニ此禁令ニ除外例ヲ設ケテ異成ノ最先發明者ニハ十四年以下ノ年限ヲ以テ特權ヲ賦與スルコトヲ得セシメタリ之ヲ現今ノ所謂特許ノ原始トス此法律ニ於テハ猶未タ發明者ノ特許要求權ハ認メラレス特權ノ賦與ハ依然王者ノ任意行爲ナルカ如シト雖實際ニ於テハ發明者ノ請求ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒否セズ次第ニ發明者ノ特許請求權ノ公認セララルニ至レリ米合衆國ニ於テハ千七百八十七年九月發布ノ憲法ニ於テ發明ノ專用權ヲ認メ佛國千七百九十一年一月發布ノ法律ニ於テハ智能的製作上ニ於ケル發明者ノ權

利ナル觀念ハ極メテ明白ニ認メラレタリ爾來歐洲各國ニ於テ相繼イテ特許法ノ制定アリ其法規ハ甚タ區區ナリト雖等シク特許處分ニ由リテ發明專用權ハ設定セラレ唯法律上ノ一定ノ條件ヲ備フルニ於テハ發明者ハ特許ヲ請求スル權利アリト云フ主義ニ基キタルモノノ如シ此ニ於テカカ特許ハ其歴史の系統ハ往時ノ特權ニ屬スト雖其性質ハ全然一變シテ今ヤ王者ノ任意の恩惠ニ非ス法律ノ保障ニ基キ設定セララル權利ナリ且夫レ往時ニ於テハ人民ニ營業權ナキヲ本則トセルヲ以テ特權ヲ得ナル者カ發明ヲ利用スルコトヲ得ナルハ當然ノ事理ニシテ特權其物ノ效力ニ非サリシカ現今各國皆ナ營業ノ自由ヲ認ムルヲ以テ特許ハ外間ニ發明ノ利用ヲ禁止スルノ效力ヲ有スルモノト爲レリ是レ即チ特許制度カ營業自由ノ原則ト衝突シ國民利福ヲ害スルモノナリトシテ一時特許反對運動ノ盛ナリシ所以ナリ

八 歐米各國カ各特許ニ關スル法律ヲ發布シテ發明者保護ノ道ヲ講シタルヲ以テ各國内ニ於テハ發明者ハ其功勞ニ對シテ相當ノ報償ヲ享受スルコトヲ得タリト雖商工業カ漸次世界的トナルニ至リテハ一國內ニ限ラレタル特許權ノ

保護ハ未タ以テ發明者ノ利益ヲ保護シ從テ其國內ニ於ケル發明思想ヲ喚起スルニ十分ナラス何トナレハ一國ニ於テ特許ヲ受クルヤ其發明ハ忽チ公ニセラ  
 ルルヲ以テ外國人ニ對シテ其發明ノ秘密ヲ保ツコトヲ得ス故ニ國內ニ於テハ  
 發明ヲ專用スルコトヲ得ルモ國境ヲ越ユレハ直ニ外國人ノ競争ヲ受ケサルヘ  
 カラス實際又各國ニ於テ外國ノ發明ノ輸入ヲ獎勵スル傾アリ露國ノ如キハ千  
 八百九十六年迄ハ外國工藝ノ模倣ヲ獎勵スル目的ヲ以テ外國ノ發明ヲ輸入シ  
 タル者ニ對シテ特許ヲ與フルノ制アリシナリ故ニ發明ノ保護ハ之ヲ國際的ト  
 爲スニ非スンハ完全ナリト云フヘカラス且夫レ其國內ニ於テハ人民ハ發明者  
 ノ利益ト公益トノ爲メニ發明ノ利用ヲ制限セラルルニ拘ラス外國人ハ自由ニ  
 他ノ發明ヲ竊用シテ發明者ト競争スルト云フハ商工業ノ世界的ナル點ヨリ觀  
 察スレハ衡平ヲ得タルモノニ非サルナリ  
 國際的特許制度ノ必要ヲ最早ク感シタルハ獨逸諸國ナリキ獨逸諸國ニ於ケ  
 ル特許ノ制度ハ當初極メテ區區ニシテ二十九箇ノ法律アリ二三ノ國ハ全ク發  
 明者ノ保護ニ關スル法令ヲ缺キタル程ナリシ千八百四十二年關稅同盟國間ニ

於テ特許制度ノ一致ヲ圖カラシメカタメノ協商アリテ千八百六十七年七月八日  
 ノ關稅同盟條約ニ於テ確定セラレタリ獨逸帝國ノ起ルヤ帝國憲法ハ特許ヲ以  
 テ帝國ノ立法事項ト爲シ千八百七十六年ニ調査委員ヲ置キ千八百七十七年ニ  
 帝國特許法ノ制定アリテ獨逸ニ於ケル特許法ノ國際問題ハ此ニ解決セラレタ  
 リ

千八百八十三年三月二十日巴里ニ於テ白耳義伯刺西留西班牙佛蘭西瓜地馬拉  
 伊太利和蘭葡萄牙三薩瓦塞爾維亞及瑞西聯邦間ニ共同一致シテ各内國人ノ工  
 業及商業ニ對シ完全ニシテ有效ナル保護ヲ保證シ且ツ發明者ノ權利及誠實ナ  
 ル商業ノ取引ニ擔保ヲ與ヘンカ爲メニ一ノ條約ヲ締結シタリ此條約ヲ稱シテ  
 萬國工業所有權保護同盟條約ト云フ其後次第ニ此同盟ニ加入スル者アリ我帝  
 國亦之ニ加入セリ(明治三十二年七月十二日勅令現今ノ同盟國ハ上記諸國ノ外  
 尙ホドミニケン英和國丁抹(フエロエ島)亞米利加合衆國英吉利(ニュート)シーラン  
 ド及クキンスランド諸國瑞典奧突尼斯等ナリ

此條約ノ大略ヲ述ブレハ(1)各締盟國ノ臣民或ハ人民ハ他ノ同盟國內ニ於テハ



工業所有權ノ保護ニ關シテハ内國人ト同様ノ取扱ヲ受タルコトヲ得ヘシ(2)同盟國內ノ一國ニ於テ適法ナル特許又ハ意匠商標ノ登録ノ出願ヲ爲シタル者ハ一定ノ期間内特許ハ六個月其他ハ三個月但海外ノ諸國ニ在リテハ一個月ヲ加フ(ニ)他ノ同盟國政府ニ出願スルトキハ優先權ヲ有ス即チ其間ニ其國內ニ生シタル事由ノ爲メニ特許出願權ヲ妨ケララルコトナシ(3)特許證主ハ他ノ同盟國ニ於テ製造シタル物品ヲ特許ヲ得タル國ニ輸入スルモ之カ爲メニ特許ノ效力ヲ失フコトナシト雖其特許品ヲ輸入スル國ノ法律ニ從ヒテ特許ヲ實施セザルヘカラス(4)各締盟國ハ工業所有權ニ關スル特別ナル事務所ヲ開設シ又中央陳列所ヲ設置スヘシ(5)締盟國共同ノ費用ヲ以テ萬國工業所有權保護同盟事務局ヲ設置スヘシ等ノ事項ナリ此他特ニ商標ニ關係アル二三ノ事項アレトモ商標法ノ講義ニ譲ル

歐洲列強中ニモ露獨ノ如キハ未タ此同盟ニ加入セス獨逸カ此同盟ニ加入セザル理由ハ左ノ二點ニ在ルカ如シ(一)優先權ヲ受クヘキ期間ノ短カキコト是ナリ蓋シ獨逸ノ如キ審査主義特許ヲ與フルニ當リ發明カ特許ヲ與フルニ適スルヤ否ヤヲ審査シテ許否ヲ決スル主義ニシテ審査手續ヲ爲サザル所謂出願主義ト對稱セラルルモノナリ其ニ後ニ説クヘシヲ取ル國ニ在リテハ少クトモ一年間ノ期間ヲ要スト云フナリ(二)同盟諸國ノ法律ニテハ特許ヲ得タル者ハ其國ニ於テ直ニ其特許ヲ實施セザルヘカラス是亦獨逸政府ノ異議アル所ナリ而シテ千八百九十二年「ブラッセル」府ニ於ケル會議此會議ニハ獨逸政府モ委員又出席セシメタリニ於テハ獨逸ノ主張モ一概ニ排斥セラレザリキ故ニ或ハ早晚同盟條約ニ多少ノ改正アリテ獨逸モ亦之ニ加入スルニ至ルヘキカ露西亞ノ同盟ニ加入セザル理由ニ至リテハ稍之ト趣ヲ異ニス前ニモ述ヘタル如ク露國ニテハ文化ノ程度猶甚タ低キヲ以テ致致トシテ西歐ノ文物ヲ輸入セザルヘカラス故ニ近年迄輸入特許ノ制ヲ設ケラレタルナリ然ルニ若シ此同盟ニ加入センカ自國民ノ發明ニシテ外國ニ於テ特許ヲ受クルモノ極メテ稀ニシテ却チ外國民ヲシテ外國ノ發明ヲ利用セシムルコト能ハサルニ至ルヘシ故ニ露國ニ取リテハ同盟ニ加入スルハ甚タ利ナラザルナリ是豈獨リ露國ノミナランヤ凡ソ對等ノ文化ノ程度ニ在ル國ニ非サレハ此同盟ニ加入スルコトヲ好マサルヘキナ

九 此ニ參考ノ爲メ歐米諸國ノ現行特許法ヲ紹介スヘシ

佛國 千八百四十四年七月五日發布

伊太利 千八百五十九年十月三十日發布千八百九十四年八月四日ノ改正

アリ

白耳義 千八百五十四年五月二十四日發布千八百五十七年三月二十七日

ノ改正アリ

西班牙 千八百七十八年七月三十日發布

葡萄牙 千八百九十四年十二月十五日發布

瑞典 千八百八十四年五月十六日發布千八百九十一年六月十二日千八百

九十二年四月十四日及千八百九十七年三月二十六日ノ改正アリ

諸威 千八百八十五年六月十六日發布

丁抹 千八百九十四年四月十三日發布

「ルクセンブルグ」 千八百八十年六月三十日發布

雜 報

○府縣ノ訴訟ニ付キ代表者指定ノ效果 府縣ノ訴訟行爲ニ付キ知事カ代表者ヲ指定シタルトキハ其代表者ハ如何ナル權限ヲ有スルカ大審院ハ此問題ヲ説明シテ曰ク「府縣知事ハ云云府縣ノ行政ニ於ケル民事ノ訴訟行爲ニ付テモ亦タ其所屬ノ官吏ヲ指定シテ府縣ノ代表者ト爲スコトヲ得ルモノトス而シテ府縣知事カ府縣ノ代表者ヲ指定シタルトキハ其指定セラレタル官吏ハ直接ニ府縣ヲ代表スルモノニシテ府縣知事ノ代理人ニアラザルヲ以テ府縣知事ハ其代表者ヲ指定スルト同時ニ其指定ヲ解クマテハ自カラ府縣ノ代表者トシテ民事訴訟行爲ヲ爲スノ權能ナキモノトス」(大審院明治三十五年(即第三百二十六號民事部判決第一) 假流金運清請求事件明治三十六年一月二十四日)

○同籍内ニ於ケル養子縁組ト相續權 同籍内ニ在ル法定ノ推定家督相續人ヲ養子ト爲スコトヲ得ルカ若シ之ヲ爲シ得ルモノトセハ其推定家督相續人ハ養子ト爲リタルニ因リ其相續順位ニ變更ヲ生スヘキヤ否ヤハ頗ル困難ナル間

題ニ屬スヘシ民法第七二七條第七四條第九七〇條第九七四條參照此問題ニ關スル或戸籍吏ノ何ノ趣意ニ曰ク長男ヲ有スル戸主アリ長男ノ婦ヲ妻リ一子ヲ舉ケ其後長男死亡セシヲ以テ民法第九百七十四條ニ依リ該長男ノ直系卑屬タル孫即長男ノ一子家督相續人ト爲ル爾後戸主ノ二男ト亡長男ノ遺妻ト婚姻シ而シテ右二男タル夫カ妻ノ同意ヲ得テ同籍内ニ於テ該家督相續人タル孫ヲ養子ト爲ストキハ該戸主ノ相續權ハ二男カ取得スルヤ將タ依然二男ノ養子タル孫ニ有リヤト之ニ對シ司法省民刑局長ハ「後段貴見ノ通」ト回答セラレタリ

(民刑局長回答明治三十六年一月五日福井縣大野郡第二一號見狀)  
(戸籍吏清水坂谷判明治三十六年一月二十七日民刑第一一號見狀)

○離婚ノ身分登記手續 「離婚届ヲ妻ノ所在地タル妻實家地乙戸籍吏ニ爲シタルトキ夫ハ甲戸籍吏管内ノ本籍人ナリ乙戸籍吏ノ爲スヘキ身分登記ハ戸籍法第二十條ノ一項二項何レヲ適用スヘキヤ云云」同ニ對シ司法省民刑局長ハ「云云離婚ノ届出ヲ受ケタル戸籍吏ハ非本籍人身分登記籍戸籍法第十九條及ヒ本籍人身分登記籍同法第二十條第一項ニ登記ヲ爲シタル後届書ノ一通ヲ夫ノ本籍地戸籍吏ニ送付スヘキ儀ト思考致候云云」ト回答セラレタリ(民刑局長回答明治三十三年)

昭和二年八月八日岐阜縣可見郡御嵩町戸籍吏安藤爲次  
 昭和三十三年一月十三日民刑第一一五號

○所得稅及ヒ營業稅計算 「本月九日付第二七五號ヲ以テ所得營業兩稅徵收取扱方ニ付御回答ノ趣了承向右御省議決定ノ理由及所得稅ニ付算定ノ方法ヲ誤リタルモノ例令第一種所得稅ヲ算定スルニ前年度繰越金、保險責任準備金及假所得稅法施行地ニ於テ仕拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子ヲ控除セス又ハ保險責任準備金以外ノ積立金ヲ加算セスシテ所得ヲ決定シタルノ類ハ其決定ヲ訂正セタルモノト爲シタル理由並ニ營業稅ニ付數箇ノ店舗若クハ營業場ニ共通使用スル營業主以外ノ從業者モ營業主同様各別ニ計算スル御省議ニ候哉併セテ承知致度候下ノ會計檢査院ノ照會ニ對シ大藏省ハ返答シテ曰ク「云云前段ハ所得金額ノ決定處分ハ法律ノ認メタル手續ニ依ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得スト雖所得金額ノ誤認明瞭ニシテ何人ト雖一見之ヲ知ルコトヲ得ヘキモノニシテ訂正ノ爲メ納稅者ノ不利益トナラサルモノヲ訂正スルカ如キハ誤認處分ノ訂正ニ過キサルヲ以テ審査請求訴訟又ハ訴訟ノ形式ニ依ルヲ要セスト認メタル次第ニ有之隨テ御例示中第一種ノ所得ニ在テ前年度繰越金保險責

任準備金及所得稅法施行地ニ於テ仕拂フ受ケタル公債社債ノ利子ヲ控除セザ  
 リシ場合ニ於ヒテ之ヲ控除シテ訂正スルカ如キハ妨ナキ儀ト存候後段ハ店舗  
 若クハ營業場ヲ異ニセル場合ハ營業主同様各別ニ計算スヘキ筈ニ候ト(明治  
 六年一月二十九日大藏省同答照)

○五大法律學校聯合懸賞大討論會 和佛法學會ノ催ニ係ル五大法律學校聯

合懸賞大討論會ハ四月十九日午後一時ヨリ本校内ニ開會シタリ出題者法學博

士富井政章氏會長席ニ著カレ本校及ヒ明治日本法學院早稻田大學生ハ運動會

ノ爲メ關應ノ選抜討論者ハ抽籤ヲ以テ順次登壇議論ヲ闘ハシ最後富井博士ノ

講演アリテ閉會シタリ其問題左ノ如シ

茲ニ公益事業ヲ目的トスル一團體アリ全國ニ亙リテ數十萬ノ會員ヲ有ス今

之ヲ壯固法人ト爲スニ當リ定款ヲ以テ各地ノ支部員若干名ツツニテ總會ヲ

組織スヘキコト又ハ總會ニ代ヘテ其集會ヲ開クヘキコトヲ定ムルハ有效ナ

ルヤ

當日ハ非常ニ盛會ニテ講堂立僅ノ餘地ナク入場シ得サル者モ頗ル多カリキ



明治三十六年五月三十日印刷  
明治三十六年五月一日發行  
（定價金貳拾錢）

編輯者 萩原敬之  
發行者

印刷者 小宮山信好  
東京市牛込區牛込矢來町三番地

印刷所 金子活版所  
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

發行所 東京市總町區富士見町六丁目十六番地  
司法省 指定  
**法政大學**  
（電話番町百七十四番）

（明治二十二年十二月九日內務省許可）  
（明治三十五年十一月四日第三編郵便物認可）  
（明治三十五年十一月十六日十八日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行）